あ ゆ み

（ 60周年記念誌 ）

あゆみ学園余戸南 現

社会福祉法人 あゆみ学園

理　　念

当法人は、障がいのある子どもとその保護者を支援するため、日本基督（キリスト）教団松山教会の青年によって始められた事業をその礎（いしずえ）とし、キリスト教の愛の精神に基づいた社会福祉事業を行い地域社会に貢献します。

基本方針

一　すべての人の人格を認め、イエス・キリストの示された愛と奉仕の心をもって利用者の支援につとめます。

二　公益事業としてその公平性・公正性の保持につとめます。

三　社会の福祉ニーズを受け止めるとともに、職員の養成とその資質向上につとめます。

あゆみ学園市坪　旧園舎　昭和38年当時

あゆみ学園市坪旧園舎

多機能型事業所あゆみ

小規模保育事業所ひかり・企業主導型保育事業所あゆみ

目　　次

『創立６０周年を迎えて』　理事長　森公夫 1

『松山市南八坂町７５番地から』　日本キリスト教団松山教会牧師　上島一高 4

『ありがとうあゆみ学園』　前理事長　松田善衛 6

『法人のあゆみ』　―あゆみ学園の沿革― 8

―あゆみ学園の始まり― 11

『あゆみ学園歴代理事長・園長』 14

『あゆみ学園と私』　評議員　山﨑順子 15

『あゆみ学園の思い出』　松山教会　田村恵美 16

『あゆみ学園と私』　社会福祉法人丹陽福祉会　理事長　野波志都子 17

『あゆみをとめないで』　旧職員　下光博之 20

『６０年のあゆみおめでとう！』　旧職員　松田ちから 21

『流れの一滴』　旧職員　亀井紀子 22

『思い出』　旧職員　池田美智子 23

『あゆみ学園６０周年に寄せて』多機能型事業所あゆみ　元管理者　真鍋孝夫 24

『「あゆみに来てよかった」と言われるように』多機能型事業所あゆみ 前管理者 喜安勝也 ... 25

児童発達支援センターあゆみ学園・児童発達支援事業どんぐり・あゆみ学園指定相談支援事業所

『あゆみのＤＮＡ』　管理者　武智一郎 27

『あゆみ学園とともに』　あゆみ学園児童発達支援管理責任者　今村高博 28

『どんぐりと外来事業にかかわって』どんぐり児童発達支援管理責任者　黒川真紀.. 29

『６０歳のあゆみ学園』　相談支援専門員　梶原佳代 30

『事務職として』　事務主任　安藤隆文 31

児童発達支援センターあゆみ学園の活動 32

児童発達支援事業どんぐりの活動 35

職員寄せ書き 37

多機能型事業所あゆみ

『６０周年記念に寄せて』　管理者　渡部剛 40

『皆様に支えられて』　職業指導員　永井壮 41

『歩み　～Keep　walking～』　生活支援員　酒井嘉恵 42

『あゆみ学園と多機能型事業所あゆみ』　家族会会長　野村りえ 43

多機能型事業所あゆみの沿革 44

思い出 45

事業概要 48

職員寄せ書き 53

利用者寄せ書き 54

小規模保育事業所ひかり・企業主導型保育事業あゆみ保育園

「あゆみ学園の保育事業について」　ひかり主任保育士　四元晶子 56

「あゆみ保育園」　あゆみ保育園　主任保育士　水本ちひろ 57

「園の概要」 59

「卒園式」 62

創立６０周年を迎えて

理事長　森　公夫

皆様のお蔭で、あゆみ学園は１９６０年の創立から６０年、法人設立から５０年という大きな節目を迎える事が出来ました。八坂町の松山教会の一角に灯された小さな明かりが、教会に集う人々の真心と、理解し応援してくださった方々、沢山の保護者の方々のお力で、消えることなく今日を迎えられましたことに心から感謝申し上げます。

あゆみ学園は前述の通り、松山教会の一隅で、通う場所もなく家庭に閉じこもっていた障がいのある子どもたちのために開設されました。当時の園長は山下萬里牧師、主任保母は二神幸子さんでした。運営を、保護者からの利用料と寄付などに頼っていたため、職員に十分な給与をだすことも出来ませんでしたが、多くが教会関係者だったため、薄給にも耐え運営を続ける事が出来ました。

初代園長・理事長
山下萬里　牧師
(昭和44年撮影)

その後、少しずつ園児も増え、教会の中で続ける事が難しくなったため専用の場所を探すことになりましたが、資金も乏しいため思うようなところが見つかりません。やっとのことで市坪の農地の中に小さな土地を見つけた時に、その狭さと分断された地形を見て山下先生は躊躇されたそうです。しかしこれを逃すとチャンスはないという職員の熱い思いに押され、重信川の土手下に新しいあゆみ学園が誕生することになりました。

ただ、土地はあっても園舎がありません。それを建てるお金もありません。県に何度も支援をお願いしましたが取り上げられず、唯一、解体する母子寮の建物を無償で払い下げしてもらえることになり、その廃材の再利用で小さな園舎を建てる事が出来ました。木造平屋の粗末な園舎と小さな通園ワゴン車で市坪の事業がスタートしたのです。

市坪に移ってからも公的な援助のないままでしたから、相変わらずの資金難で療育も職員の給与も思うようにはなりません。なんとか公的な支援を得られるようにと社会福祉法人化を模索しましたがなんといっても資金がありません。

関係者は奔走し、保護者や教会関係者、事業を理解していただける人々から、文字通り貧者の一灯を集めて木造二階建の園舎を増築することで、基準をやっとの思いでクリアした、愛媛県最初の精神薄弱児通園施設「あゆみ学園」が誕生しました。

市坪に移った当時の園舎と風景

当時の定員は３０名。就学前から１８歳までの子どもが利用していました。ところが法人化して数年後に、さっそく大きな問題がおこります。法律が改正され、これまで就学猶予という制度の中にあった子どもたちも、就学年齢になったら全員が学校に行くということになりました。あゆみ学園は、３歳～就学までの子どものための療育施設になったのです。

法人前、また法人化にあたって協力していただいた保護者の方々には、あゆみ学園に生涯通いたいと考えていた方も多く、少なくとも児童福祉の範疇である１８歳までは通えると安心していた保護者と園の間で、この問題について何度も話し合いが持たれました。しかし、社会福祉法人として事業を続けていくためには、新しい制度を受け入れざるを得ず、結果として頼りにしてもらっていた子どもや保護者の一部を切り捨てるような形になったことも事実です。

法人化前の園児と職員

当時は、知的障がいのとらえ方も今とは違い、社会の理解や関心も限定的であったため、３０名の利用定員は時に定員割れとなることもありました。それによって定員の削減や補助金の減額もありえる状況でしたので、市内に同じ目的の施設が出来た時には、当時の園長だった関岡先生が、園経営の先行きについてたいへん危惧されていたのを思い出します。しかし、その後社会の障がいに対する考え方の変化や、発育に支援を要する子どもたちの増加から、現在ではあゆみ学園のような児童発達支援センターだけではニーズに応じきれない状態になっているのが現実です。

社会福祉法人化の後は、公的な支援や民間の補助金なども活用できるようになり、その資金で隣接地を購入するなど徐々に施設として形が整いはじめ、１９７５年、運動場として購入していた敷地に、温水プールを併設した新たな施設を建築することに

なりました。

地域にも支えられながら、やっとあゆみ学園の事業が順調になってきた頃、今度は１９９０年頃から構想があった松山市の中央公園計画が具体化し、その計画地の中にあゆみ学園の一部が入るということがわかりました。その後、市関係者と法人との話し合いが何度も持たれ、松山市や障がい福祉課の方々のひと方ならないご尽力の結果、敷地の一部ではなく、施設全体を一括して買い上げてもらうということになって、１９９５年、公的補助の他、民間の補助や多くの方々の寄付を得て現在地に施設を新築移転することが出来ました。

何の資力もなかったあゆみ学園が、こうして地域貢献ができる社会福祉法人のひとつに加われるまでの過程をふりかえってみると、創立から現在まですべてが奇跡のようです。しかしこれは単なる偶然ではなく、きっとそこに、神様の導きと、人々の付託にこたえようとする「隣人愛」の火が燃え続けていたからなのだと思うのです。

最後に、あゆみ学園と私とのかかわりを書かせていただきます。

５０数年前、当時油絵の師であった仙波斎先生（その後　城南高校校長）や松山教会副牧師だった岡本先生に声をかけていただき、松山教会や、市坪の農地にポツンと建っていた粗末な木造園舎のあゆみ学園にボランティア活動に行くようになったのがそもそものきっかけでした。その後、昭和４４年に社会福祉法人化した時の職員のひとりに加えていただき、以来、職員として、また離職後は役員のひとりとして、あゆみ学園を支える方々の仲間に加えていただけたことは本当に身に余る光栄です。その頃、教会を通じて一緒にボランティアをした大学生と高校生の西村清さんや嶋圭吾さんが、今のあゆみ学園を役員として一緒に支えてくださっていることも不思議なめぐり合わせです。

目を瞑りますと、今でも山下萬里先生、岡本先生ご夫妻、穂積先生、関岡先生、長く理事長の任を負ってくださった竹内真さんのお顔が次々と瞼に蘇ります。また、市坪から現在地への移転時に尽力された今村歌子理事長、療育の基礎を確立していただいた市原園長、就労支援事業の立ち上げに協力していただいた田和先生、松田善衛理事長、時代の波風の中、書ききれないほどの、あゆみ学園のために尊い働きをしてくださった方々のことを思い出します。そのほとんどがこの世の務めを終え、墓標にその名を残して天国へ旅立たれました。この機会をお借りして心からの感謝を申し上げます。

種を蒔いてくださった方々、小さく弱々しい苗に深い愛情を注いで育ててくださった方々。皆様、本当にありがとうございました。

松山市南八坂町 75 番地から

上島一高（日本キリスト教団松山教会牧師）

「ささやかな一般寄付者として、妻・美枝［松山教会出身］と共に、長年あゆみ学園を応援して来たものでしたが、この度、学園の母体である松山教会牧師となり、同時に、学園の理事にも加わらせていただきました」。2016 年のクリスマス、『あゆみ学園だより』に私が初めて寄稿した一文＜『あゆみ』にたどりつく＞の書き出しだ。あれから丸 6 年になる。

松山教会では、ここ数年、2 月下旬に「あゆみ学園を覚える礼拝」を続けている。可能な場合には、森公夫理事長始め、関係者のメッセージをいただきながら、この大切な働きを分かち合い、また、働きのために祈っている。そんな中で、今年（2022 年）も「覚える礼拝」の準備をした。

この時は、旧約聖書のヨナの物語が示された。ヨナは神さまからニネヴェの町に行くことを命じられた。かの都市が滅びに瀕していることを告げよと。しかし、ヨナは使命から逃れるべく、逆方向に向かう船に乗る。海は荒れ、その原因が彼にあることは明白。彼は名乗り出て荒海に投げ込まれる。しかし、大魚に飲まれ、陸に吐き出され、再び使命へと向かう。

その後も二転三転することはさておき、これは召命の物語だ。突然、ある使命へと召され、大転換を余儀なくされる。初期の松山教会には、学ぶ場を持てない子らのための夜学校へと召された人々がいた。一身を捧げて 50 余年校長職を勤めたのは西村清雄。同校は、今、松山学院（旧・城南）高校となって、学ぶ場が得られない子らに積極的に門を開いている。

西村清雄への召しの中で、神が彼に与えられたのは、子どもたちが伸び行くことを妨げるものに打ち勝たせ、彼らに主が与えられている可能性を引き出し、彼らがそれを建て上げることを助けること。そんな、西村から教えを受けて人生が拓かれた方がいる。かつて、あゆみ学園の理事長を務められた松田善衛さんだ。

善衛さんら生徒たちは西村清雄校長を慕って、放課後校長室に行っては語らったという。そんな中で、教育への道を示され、「このような者が」と思いつつも、大学進学のため努力し、それは報われる。教師になってから、当時はまだ取り組まれ始めたばかりの特別支援に取り組む中で、その道の開拓者の一人となって行く。

退職後も、神は善衛さんを放っておかなかった。松山教会が揺り籠となって生まれた「あゆみ学園」から声がかかり、御自身の賜物を存分に生かされる。その後、理事長を

も担われたのだった。私が善衛さんのお宅の玄関で、これらの経緯を伺い、穏やかな善衛さんの熱い魂と出会ったのは 2 年前。神はこの魂を 2022 年 10 月 5 日天に召された。

「あゆみ学園」を形作ったのは、松田善衛さんのように、神さまからの「召し」に応えた人々。また、このような場を願い、子らの成長を粘り強く見守ったご家族、地域の方々である。そして、何より、これらの人々の眼差しの中で輝いて行く子どもたち、人々である。そこにあったドラマの一幕を、最後に、記したい。

60 周年記念誌を編まれると聞き、寄稿を頼まれた頃、たまたま、「あゆみ学園資料」と赤字で表書きされた古封筒を手にした。黄ばんだ『あゆみ学園後援会会報』（1962 年 7 月 5 日）と『あゆみ学園だより』（第 3 号 1963 年 9 月 30 日）を広げるや、タイムカプセルを開けたかのように、草創期の人々の声が聞こえて来た。

『後援会報』で、学園長の山下萬里牧師は、「幸いにして後援会も活動を始めるようになりましたので、この機会に二年間をふりかえって、皆さんに『あゆみ学園』のあゆみを知って頂こうと」と発刊の趣旨を述べ、続いて、二神幸子保母が＜今日まで＞を綴っている。

そこには、こんな言葉が。「(公的な受け入れ場所のない、様々なハンデを持つ) 児童達が、八坂公民館横の古びた教会堂に集まって来て」いるけれど、そんな彼らが「広いホールも所せましと、走り回り遊具を出しては、嬉々として生活を楽しんでいる」。

また、こんな言葉も。「全然、戸の開けたてが出来なかったのに、それを覚え、お母さんが迎えに見えると、飛んでいくようになったり……」、「とうてい望めなかったことが彼らなりに、一つずつ成されて行くのを見ますと……神に感謝せずにはいられません」。

『学園だより』第 3 号には垂水泰雄・記としてこんな言葉が。「この子等は油紙のようなものだ。美しく彩ってやりたい、美しくたのしい模様を画いてやりたいと筆をとっても、すっかり絵の具をはじいてしまう。いくら画いても画いても何も残らないように思える」。「だけど、よく観ると、有る、見える。ほんの僅かだが、キラキラ輝く色素の粒が。まえには見当たらなかったものが。ああ、マジックインキがあれば、誰の眼にも映るように、この美しい色素の粒のありかに線をひきたい」。

こんな思いを分かち合いながら、「あゆみ学園」は、その頃、「松山市南八坂町 75 番地（松山教会)」という揺り籠から一歩踏み出そうとしていた。「次号は、学園舎移転計画をおしらせできるようにしたいと思っております」(編集後記)。古い『たより』は、あゆみ学園の次のステージを予告している。こうして、60 年を重ねた。ただ、感謝。

ありがとう　あゆみ学園

前理事長　松田　善衛

１９８２年に、附属養護学校（現　附属特別支援学校）が開校され、開校から９年間、私は、教諭として勤めました。毎年、６～７名の児童が入学してきましたが、その中の多くが、言葉の上での問題を抱えていました。言葉数が少なく、「あれ。これ。何。」と言うだけで、名詞や動詞の表現がなく、自分の要求を伝えることが出来ない。また、話は出来るが、発音が不明瞭で、よほど聞き慣れている身近な者でないと聞き取れないといった状況が多く見られました。この問題を解消するために、言葉の数（理解言語、表出言語共に）を増やすことや、発音・発声練習を通して、相手に聞き取れるように話す能力を高めること、部分的に発音できない音があっても、聞き手に理解できるように話ができるようになること、サ行音やラ行音が他の言いやすい音に入れ替わる癖を修正するよう指導に努めました。

養護学校の勤務の後は、教育センターで４年、言語指導を続けてまいりましたが、その後転勤となり中断しておりました。

定年退職の２年後には、非常勤の生徒指導員となりました。言語指導に生きがいを感じていた私は、早い段階から指導をすれば、より効果的ではないかと思い、空いた日に、あゆみ学園の幼児に対して、言語指導をしてみようと考えるようになりました。そこで、あゆみ学園に訪問し、宮崎園長に思いをお話ししたところ、宮崎園長から「私も、その必要があると思っていたのですが、指導する人がいなくて困っていたところです。ぜひお願いします。」とおっしゃっていただき、週に１回、個別による言語指導を始めることができました。これが、私とあゆみ学園の出会いです。

指導を通して、片言ではありますが、自分から言葉を発するようになったり、発声発音が明瞭になったりと、幼児の成長を感じ、ますます言語指導のやりがいを感じた次第です。

指導を始めて、２～３年後に理事のお話をいただき、引き受けることにしました。

１９９５年、松山市中央公園の建設が始まり、あゆみ学園は、その用地に当たるため移転となり、１９９６年、現在地に園舎が落成しました。

これを機に、竹内眞理事長が退任し、今村歌子先生が理事長に、私が副理事長に就任いたしました。２００６年、今村歌子理事長が退任し、私が、２０１６年までの１０年間、理事長の任につき、あゆみ学園とともに過ごしてまいりました。

その間に、養護学校（現　特別支援学校）教育が義務化となり、卒園児は全員就学で

きるようになりました。高等部までの１２年間、保護者が安心して、子どもたちを通学させることができたことは、何より嬉しいことでした。しかし、卒業後の行き先がありませんでした。卒業後の就労、自立支援は大きな課題でもありました。そのために、卒業までに就労できる共同作業所の開設を急ぎました。市原園長の再三にわたる認可書類の提出により、２００５年にやっと許可がおりました。幸いにも松山教会員の岡田登美子様から土地の寄付を受け、建設が始まりました。建設に当たっては、第三養護学校長（現　見奈良特別支援学校）であった田和孝志先生にお願いし、施設設備の計画を立案していただきました。こうやって皆様のご縁や援助があってのあゆみ学園作業所の設立です。

作業所では、通所者の能力に合わせて、室内での軽作業、寄付していただいたいちじく畑での栽培と販売、ビニールハウス２棟による、イチゴやミニトマトの栽培と販売、更にジャムの加工と販売、ビニールハウス周辺での野菜の栽培と販売を行っています。直売所での売れ行きは、地域の住民の方の理解もあり、順調に増えていると伺っております。

今では、通所者の生産能力向上により、適切な手当ても支給できるようになりました。自立への一歩です。

私は、今は療養生活の身ですが、あゆみ学園での言語指導に携わった時間は、かけがえがなく忘れがたいものです。退職後２０年以上にわたり、生きがいとなったあゆみ学園とのかかわりに心から感謝しております。

あゆみ学園６０周年にあたり、このような記念誌に参加できることを嬉しく思います。

あゆみ学園　ありがとう。

これからのあゆみ学園の発展を心より祈念しております。

法 人 の あ ゆ み

—あゆみ学園の沿革—

１９６０年（昭和３５年）

４月１８日　日本基督教団松山教会により心身障害児通園施設として、松山市八坂町７５番地にあゆみ学園を開設。

１９６３年（昭和３８年）

９月　７日　松山市市坪町 902、903、904 番地の土地 351.81 坪(1,160.97 ㎡)を購入し、母子寮古材の払下げを受け、これを移築し、木造モルタル仕上げセメント瓦葺平屋建 97.36 ㎡の園舎落成。

１９６８年（昭和４３年）

７月３０日　木造モルタル仕上げセメント瓦葺一部二階建182.16㎡の園舎を新築。

１９６９年（昭和４４年）

２月１２日　社会福祉法人あゆみ学園の設立を認可される。

３月２５日　社会福祉法人あゆみ学園登記。

４月　１日　児童福祉法による精神薄弱児通園施設の事業開始。

１１月２９日　隣接地松山市市坪町 852、853 番地、計 1,848 ㎡の地所を購入。

１９７３年（昭和４８年）

１０月２０日　屋外水泳プール竣工。

１９７５年（昭和５０年）

３月３１日　指導棟（保育室、集会室兼食堂等）343.50 ㎡を新築する。
（日本自転車振興会助成金 1,925 万円、松山市補助金 175 万円、寄付などによる自己資金 935 万円、合計 3,035 万円）

１９７６年（昭和５１年）

４月２９日　優良民間社会福祉施設としてご下賜金を賜る。これを記念してご下賜金記念文庫を創設する。

１９７９年（昭和５４年）

２月１０日　松山市市坪町 851 番地の土地 952 ㎡を運動場用地として購入する。

３月１０日　最古の園舎木造平屋建 97.36 ㎡を取りこわし、その跡に遊戯療棟、機械室計 234.05 ㎡を新築する。
（日本自転車振興会補助金 1,883 万円、自己資金 723 万 8 千円、合計 2,606 万 8 千円）

４月　１日　養護学校義務制により幼児通園施設に移行

９月　５日　母子通園事業（診断部門、療育部門、相談部門で構成）開始

１９８５年（昭和６０年）

７月２５日　温水プール、ソーラーシステム設置 485 万円（日本母性保護医協会補助金 ― おぎゃー献金 300 万円）

１９８９年（平成元年）

１１月１８日　市制 100 周年にあたり、松山市長より表彰される。

１９９２年（平成４年）

７月２６日　指導棟、遊戯療棟の補修及び改造を行う。
（車両競技公益資金記念財団助成金 706 万円、自己資金 236 万 4,500 円、合計 942 万 4,500 円）

１９９５年（平成７年）

９月１４日　松山市中央公園建設に伴い、あゆみ学園の移転が決定する。

１９９６年（平成８年）

８月３０日　松山市余戸南 6 丁目 6 番 9 号に、鉄筋コンクリート造一階建て一部鉄骨造の園舎を新築、落成式挙行。敷地面積 4,470.65 ㎡、建物面積 988.51 ㎡、延床面積 895.33 ㎡
総工費 251,932,910 円（国庫補助金 45,672,000 円、愛媛県補助金 22,837,000 円、松山市補助金 22,830,000 円、自己資金 160,593,910 円）

２０００年（平成１２年）

４月　１日　相互利用制度（定員の２割）が承認され、事業開始。
また、地域療育等支援施設事業の再委託を受け、事業開始。

２００１年（平成１３年）

１０月　１日　障害児（者）地域療育等支援事業受託。

２００３年（平成１５年）

５月　１日　児童デイサービスどんぐり事業開始。

２００６年（平成１８年）

４月　１日　中予圏域（６市町）より、障害者相談支援事業受託。

７月　１日　知的障害者通所授産施設あゆみ作業所開設。

１０月　１日　あゆみ学園指定相談支援事業所（児童・特定・一般）開設。

２０１１年（平成２３年）

７月　　松山市余戸南 6 丁目 2394 番 5 の畑地 330.59 ㎡(300 万円)を購入し、

生活介護棟の建設を進める。

２０１２年（平成２４年）

３月３１日　生活介護棟 144 ㎡が完成。総工費 22,522,500 円
（国庫補助金 19,425,000 円）

４月　１日　法改正により、事業所名改称。
『知的障害児通園施設あゆみ学園』は
『児童発達支援センターあゆみ学園』
『児童デイサービスどんぐり』は『児童発達支援事業どんぐり』
『知的障害者通所授産施設あゆみ作業所』は
『多機能型事業所あゆみ（就労継続支援Ｂ，生活介護)』となる。

２０１３年（平成２５年）

４月　１日　相談支援事業所くじら（児童・特定）開設

９月１９日　就労継続支援Ｂ型実習用地として、松山市余戸南 6 丁目 2394 番 5 の土地（いちじく畑）785 ㎡（717 万円）を購入。

２０１６年（平成２８年）

４月　１日　松山市畑寺町 839 番地 6 に敷地 125.61 ㎡、建物 97.71 ㎡を借り受け、小規模保育事業所ひかり開設。

２０１７年（平成２９年）

８月２１日　就労継続支援Ｂ型事業所用地として、松山市余戸南６丁目 2392 番 5 の土地 404 ㎡及び松山市余戸南 6 丁目 2393 番 3 の土地 1359 ㎡を購入。

１１月１６日　就労継続支援Ｂ型事業所用地として、松山市余戸南６丁目 2395 番 2 の土地 558 ㎡及び松山市余戸南 6 丁目 2396 番 1 の土地 572 ㎡を購入。

２０１８年（平成３０年）

３月　１日　松山市畑寺町８４３番１に敷地６５８㎡（3,470 万円）を購入、木造スレート葺平屋建物１９３．７７㎡（3,264 万円）を建築、企業主導型保育事業あゆみ保育園開設。
さらに同地に小規模保育事業所ひかりを併合。

２０１９年（令和元年）

９月１８日　就労継続支援Ｂ型作業棟として、大型ビニールハウス２基が完成

法 人 の あ ゆ み

―あゆみ学園の始まり―

（昭和４０年頃作成の印刷物に載っていたあゆみ学園の始まりです。当時を思い出す貴重な資料だと思われます。表記や言葉遣いについては現在使われていることばに直して掲載しました。）

あゆみ学園のなり立ち

あゆみ学園のはじまりは、昭和３５年、当時県立八幡浜学園の職員であられた二神幸子先生が松山において、ある家庭を中心に知的な障害のある子どもの世話を始められたことから起りました。最初は週一回でしたがこれではなかなか成果も上がらず、さりとて毎日では家庭を使用することは無理であり、同先生が日本キリスト教団松山教会会員であったところから、教会の承認を得て旧会堂を使用することができるようになりました。

この間牧師の離任着任のことなどあり、昭和３５年４月、山下牧師を正式に園長に迎えて、いよいよあゆみ学園としてのあゆみが始まりました。最初は学園の方針も決まらず、むしろ広く学校や施設に入ることのできない子供たちを受け入れたので、知的な障害のある子あり、手足の不自由な子あり、障害の重複する子ありという状況でした。従って指導の面で混乱をきたすこともありましたが、やがて対象は知的な障害を中心に重症心身障害の子にしぼられて来て、方向が定まったわけです。

当所は通園バスもなく、保護者の方々が手をひき、あるいは自転車にのせ、あるいは背におぶって送り迎えされる有様で、その不便労苦は察するにあまりがありました。幸い関係者のひとりが自家営業用の車を提供して朝と午後の２回、子供たちの送迎を引きうけてくださったので、どんなに助かったことでしょう。しかし考えてみますと、これはいつ終わるということではありません。またそういつまでも好意に甘えているわけにもいきません。何とかして通園車を得たい、との願いが強くなって来ました。愛媛新聞その他でこのことが取り上げられますと、多くの方々が賛同してくださり、小さいながらも通園車を入手することが出来るようになりました。

また後援会も組織され、学園の経費も、順次満たされるようになりました。こうして教会のなかにも、これを教会の仕事としてうけとめて行こうとする思いが次第に高まって来ました。

園舎の移転

あゆみ学園は最初の指導者であった八幡浜学園園長、近藤先生のお考えにより、施設でなくとも、場所と世話をしてくださる方があれば、父兄が協力して子供のために何かしてやれるのだという実例を広く世間に示そうというのがねらいでありました。施設はどれほど作っても現状では充分なほどになり得ないのだから、むしろこの例にならって、各地で同じような動きが起るようにと願われたのです。しかし月日がたちますと保護者の中に、是非施設にしてほしいという要望が起るのは当然のことといえましょう。子どものためによりよいものをと願えばやはり場所だけ建物だけでなく、よりよい環境を、よりよい設備を、よりよい道具教材を、と願わないわけにはいきません。

加えて松山教会旧会堂は条件が悪く、運動場もなく他の幼稚園児や一般児童と共用で遊園地を使うなど不便なことも多く、更に建物のすぐ外は道路になっており、交通が頻繁になってくると、判断力の不十分な子供たちには危険でもあるので、どこか適当なところに移転をしたいという希望が強くなって来ました。

こうして昭和３８年９月頃から各方面へのよびかけが始まり、更に募金にいたっては、北は北海道から南は九州にいたる全国各地の善意の人々、団体、教会から次第に賛同を集めて、いよいよ本格的に計画を立てることになりました。この間、厚意をもって下さる方々のご協力を得て、県庁・県議会・市議会・市長などにも働きかけましたが、法人となっていない悲しさで公的な援助は期待できませんでした。ただ関係当局のお計らいで官有建物の払下げと共同募金の配分について御配慮いただいたことは感謝でした。

又これを機会に学園を正式に教会が行う公益事業とするために必要な手続きを取りました。さて計画を進めてみるとあれこれの障害があり、計画は一転二転しましたが、最終的に松山市市坪字外新田に土地約４００坪を購入し、払下げ建物を移し改築して２７．５坪の園舎とすることになりました。当初１５０万円の予算でありましたが、土地の購入、造成、付帯工事等をあわせて約２４７万円の経費を要し、加えて募金も思うように進まなかったため、１３５万円を第二次募金に期待しなければならないこととなりました。

あゆみ学園の出発

新しい園舎は石手川と重信川の両堤防にはさまれ、東はJRの線路によって画される三角地帯のほぼ真中、重信川堤防ぞいにあります（現在の坊ちゃん球場のあたり）。北は石手川の松並木をへだてて、城山を見、南は四国山脈を遠望し、のびのびとしたよい環境です。まだ建物と塀とがあるだけで、何もありませんが夢は一杯あります。ここに現在十名の子供たちが毎日通園、三名の先生たちによって愛育されています。子供たちもここに来てからいよいよ明るくのびのびして来たようです。しかし子供たちの将来を思うとき、ここが子供達の働きの場、生活の場ともならなくてはならないと考えさせられています。そのためには次々と段階を踏んでいかなくてはなりませんがこの困難に立ちむかう勇気は、多くの人々の祈りとご協力なしにはあり得ないと感じています。

花を植え遊具をそなえ、また園舎の内外を整備するなどこまかい点も進んでいませんが将来は１棟の園舎と作業場、事務室及び職員住宅などの必要を感じます。更に成長していく子供達の働きの場、生活の場、となりうるように進めたいと願っています。現在のところキリスト者がこうした仕事に挺身されることはあっても協会の公益事業としてこのような仕事を取上げている例を聞きません。私たちはこれを神からのご委託として受けとっています。そして神がこの仕事を協会に委ねておられる限り神は必ず備えたもうと信じています。

あゆみ学園歴代理事長・園長

理事長		園長					
1969(S44) 2.12	山下　萬里	心身障害児通園施設あゆみ学園					
		1960(S35). 4.18 ～ 1969(S44). 3.31	山下　萬里				
1969(S44) 12.18	渡部保次郎	精神薄弱児通園施設あゆみ学園					
		1969(S44). 4. 1 ～ 1972(S47). 3.31	保積　虎夫				
1970(S45) 8.23	白石　　要	1972(S47). 4. 1 ～ 1979(S54). 3.31	関岡武太郎				
1976(S51) 3.10	竹内　　眞	幼児通園施設あゆみ学園					
		1979(S54). 4. 1 ～ 1982(S57). 3.31	関岡武太郎				
		1982(S57). 4. 1 ～ 1989(H元). 3.31	田所　正雄				
		1989(H元). 4. 1 ～ 1995(H 7). 3.31	宮崎　達雄				
1995(H 7) 4. 1	今村　歌子	1995(H 7). 4. 1 ～ 2001(H13). 9.30	市原　文明				
		2001(H13). 4. 1 ～ 2003(H15). 3.31	森　　公夫				
2003(H15) 4. 1	松田　善衛	2003(H15). 4. 1 ～ 2004(H16). 3.31	市原　文明				
		2004(H16). 4. 1 ～ 2007(H19). 3.31	大西　昌三	あゆみ作業所			
				2006(H18). 7. 1～ 2007(H19). 6.30	河部圭一郎		
		2007(H19). 4. 1 ～ 2010(H22). 3.31	渡部　尚由	2007(H19). 7. 1～ 2008(H20). 3.31	小原　紘策		
		2010(H22). 4. 1 ～ 2012(H24). 3.31	宇髙　勝美	2008(H20). 4. 1～ 2011(H23). 3.31	亀井　紀子		
				2011(H23). 4. 1～ 2012(H24). 3.31	真鍋　孝夫		
2013(H25) 4. 1	森　　公夫	児童発達支援センターあゆみ学園外		多機能型事業所あゆみ			
		2012(H24). 4. 1 ～	武智　一郎	2012(H24). 4. 1 ～ 2018(H30). 3.31	真鍋　孝夫	小規模保育事業所ひかり	
						2016(H28). 4. 1～	森　　公夫
				2018(H30). 4. 1 ～ 2022(R 4). 4. 30	喜安　勝也	企業主導型保育事業あゆみ保育園	
				2022(R 4).10. 1 ～	渡部　　剛	2018(H30). 3. 1～	森　　公夫

あゆみ学園と私

評議員　　山﨑 順子

もうかれこれ６０年以上前のことです。松山東雲学園中高生だったころ、アッセンブリーの時か、ホームルームでの活動の時か、まだ八坂にあった松山教会の一室に「あゆみ」を訪問した記憶があります。まさに１９６０年４月「あゆみ」が設立されたばかりの頃です。それ以降、先輩の話や書き残された資料などから、様々な困難や苦労があったこと、多くの方々の祈りと支えと献身的な働きにより、１９９５年３月、現在地に新築、移転し、今では社会福祉法人あゆみ学園として「児童発達支援センターあゆみ学園」、「保育事業ひかり・あゆみ」、「多機能型事業所あゆみ」の運営がなされております。その時々に備えられた諸々のことに感謝したいと思います。

松山教会は、初代山下萬里牧師から、１９６９年１２月渡部保次郎兄、１９７０年7月白石要兄、１９７６年３月竹内眞兄、１９９５年３月今村歌子姉、２００３年４月松田善衛兄、２０１３年４月から現在の森公夫兄に至るまで、教会員が理事長として関わってきています。また理事や評議員としての役割もあります。２００６年８月の松山教会婦人会幹事会議事録に、あゆみ学園でのボランティア活動開始の記事がありました。月１回金曜日の午後２時間の作業所の方々との交わりは、今後も続けていきたいと思います。コロナ禍の今、中断しておりますが、早い時期での再開を願うのみです。

私は２０１１年４月に、１９９５年から後援会長を担って来られた二神純子さんの後を引き継ぎました。会長らしき仕事は何もできていませんが、お役に立つことはないか、今後のあり方に思いをめぐらせています。

年月が経過し、松山教会の会員も創立当時の様子を知る人が少なくなってきました。しかし、昔の青年達の思いを覚え、いつまで支えあいながら、交わりをもって、祈りつつ「あゆみ」とともに歩むことができればと思っています。

職員として働いておられる方々、あゆみに集う園児、事業所に通う人々、そして保護者の方々、あゆみを支えてくださる多くの方々と共に、皆の願いや希望の実現のために、「あゆみの理念」にてらしつつ、次の新しい一歩を踏み出していかれますよう願っています。

あゆみ学園の思い出

松山教会　田村 恵美

私が初めて、あゆみ学園を訪ねたのは小学生の頃でした。恐らく 1980 年代当初か 1970 年代後半、教会学校の遠足で、だったのではないかと記憶しています。

実際のところ、どうだっただろうかと、「松山教会百年史稿」を開いてみると、1979(昭和 54)年 10 月 14 日、この日、教会は、あゆみ学園での野外礼拝と、教会の礼拝堂の２か所に分かれて礼拝を守っていたことが記されていました。野外礼拝は、あゆみ学園のグラウンドで守り、昼食をとった後、学園内外の整備清掃などの奉仕をした後、遊戯治療棟などを見学。ホームで茶菓を頂き、親睦の時をもったとも記されていました。私のおぼろな記憶では、大勢で土手を歩いて、土手を降りた先に、あゆみ学園があったように思います。建物がどんな様子だったかは覚えていないのですが、ウサギ小屋があって、私たち子供は、ウサギに大興奮した記憶があります。

その年か、次の年の教会のバザー(この頃は、毎年 11 月 23 日でした。)でのこと。その当時、神社のお祭りの露店などでは、赤や緑に着色されたヒヨコが売られていました。バザーも言わば、お祭りのような場でしたから、生き物が売られているのはよくあることでした。この日、あゆみ学園からは、ウサギが何羽か出品されていました。恐らく、小学生の私でも手の届く値段がつけられていたか、あるいは無料だったのかもしれません。私は、そのウサギたちの中の一匹、箱の隅で、じぃっとしていた、少し青みがかった灰色の小さなウサギを家に連れて帰りました。名前は、大好きな絵本「ねずみくんとチョッキ」から、ねみちゃんと名付けました。ねみちゃんの体が小さいうちは家の中で飼っていましたが、だんだん大きくなってきたので、庭に木と金網とで小屋を作ってもらって、そちらで飼うようになりました。自由を愛するねみちゃんは、小屋の金網が嫌いでした。小屋から(金網越しではなく)直接庭を見るのが好きだったようで、何度直しても、気が付くと、金網に穴をあけていました。確か 7 年ほど生きていたので、ウサギの中では長寿な方だったのではないかと思いますが、最期は、その金網の隙間から入りこんだイタチに食べられてしまいました。

あれから、もう長い時を経てしまいましたが、ねみちゃんと過ごした期間、ずっと私の心にあったのは、「この子は、あゆみ学園からやって来た。」ということでした。ねみちゃんをなでる度、ねみちゃんに餌をあげる度、そのことが頭に思い浮かびました。

私にとってのあゆみ学園の思い出は、このねみちゃんを通しての、あゆみ学園との連帯感だったことを思います。何かを通して、誰かと繋がることができる、という体験を、このねみちゃんを通してできましたことを、心から感謝しております。あゆみ学園創立 60 周年、誠におめでとうございます。

あゆみ学園と私

社会福祉法人丹陽福祉会　理事長　野波　志都子

数年前の初夏の候、あゆみ学園の園児さんたちの元気な活動の様子が、お便りで届いてまいりました。人の感情は３歳までに育つといわれています。その笑顔を見ると、きっとよい職員の方々によって大切に療育をされているのだろうと想像しました。また、学園報の一頁に、白黒写真で写っていた、なつかしい子どもたちの姿には、思わず涙がこぼれ胸が熱くなりました。

もう五十年以上も前の話ですが、ある日松山教会の牧師であり、あゆみ学園の園長でもあられた山下萬里先生から、「認可施設にしたいので資格のある貴女にぜひ来てもらいたい。」と私にお声がかかりました。、突然の事に驚きながら、「どのような保育をすれば良いのでしょうか？」とお尋ねしますと、先生は「３歳くらいの児の保育内容で。」といわれます。不安はありましたが、「これはきっと神様のお導き、逃げるわけには行かない」という思いを胸に、私は、松山市市坪の重信川の土手下にポツンと建った、「精神薄弱児通園施設」と小さな看板がかかっていた無認可の福祉施設に導かれました。

今のように就職と同時にワンルームマンションに入るというような時代ではありませんでしたから、先ずは住むための場所が必要です。先生からは、三番町にあった松山教会の牧師館横の、以前は教会学校に使われていた古い建物の二階を用意していただき、お給料二万円であゆみ学園職員になりました。

学園の生徒さんは十二人（ひろしくん、あっちゃん、てっちゃん、せいちゃん、まりこちゃん、やっちゃん、たあちゃん、みちよちゃん、〇〇ちゃん、〇〇ちゃん、〇〇ちゃん、〇〇ちゃんという顔ぶれです。

年齢はまちまちで、認可外なので行政からの支援は無く、すべてを保護者からのいただくお金で賄わなければならないため、お月謝は一人二万円と当時としては高額な負担をお願いしなければなりませんでした。

初出勤の日に、私は小さな中古の通園バスに乗り、張り切って生徒のてっちゃんをお迎えに行きました。ところが、玄関で迎えてくれたてっちゃんのお母さんの第一声は、「こんな若い子に、この子等の世話できるん？」というもので、自信満々の二十五歳は出鼻をくじかれた思いでした。てっちゃんは重度の小児麻痺で、小柄のおとなしい男の子でした。とにもかくにも、てっちゃんを乗せて、私のあゆみ学園生活は発車オーライしたわけです。

あゆみ学園のはじまりは、三、四人の保護者の方が教会をたよってこられたのがはじまりと聞いております。創設時は、私も知らない大変なご苦労があったようです。そのころの貴重な記録はのこっているのでしょうか。私自身の保育日誌も失っていて、ずいぶんと記憶も古くなりました。当時を思い出しながらですが間違いがあればお許しください。とにかく新しい出会いが次々とありました。なつかしいお姿を思い出しますが、多くの方が

すでに天に旅立たれています。教会には、賛美歌「山路越えて　ひとりゆけば」の作詞で有名な西村清雄先生もご存命でしたし、しっかり支えて下さった婦人会の村瀬五十子姉、大政姉、東雲学園からも生徒さんにボランティアに来ていただいていました。

そうこうしていると、京都から佐藤芳直伝道師が赴任され、恵美夫人と二人で保育が出来る体制になりました。また、それまでお百姓さんのアルバイトで回っていた通園バスは、若い青年、矢野君になり、運転と同時に保育のお手伝いもしてくれるようになり、一緒にさつまいも畑を作ろうと耕しはじめたのでしたが、石ころだらけの土地で畑は断念しました。

療育は幼稚園のような雰囲気の中で、朝の礼拝からはじまります。みんながオルガンやピアノの音に、よろこんで集まってきましたが、まだ歌える子はいませんでした。製作の時間で色紙を切る時、ハサミは何とか持てても切ることが出来ず、私が必死になって指導（？）していると、一緒に来ていたお母さんから「先生、このこ等、出来んけん、ここへきとんよ。」と明快な答えを出していただき、一気に肩の荷が軽くなりました。今まで幼稚園で、同じ成長をしていくことを目標にした保育をしていた私にとって、ひとりひとりの違いを知り、理解して支えていくことのむつかしさに悩む毎日でしたが、それでもなんとか、気力を振り絞ってその年のクリスマス会や運動会を計画しました。

当時は書店に行っても、ダウン症の子どもの研究書はあっても今程発達障害についての書物はなく、とにかく力を合わせて出たとこ勝負で、笑うに笑えない療育に取り組んでいました。そんな中でやっとたどりついた運動会。思ったように行かないことが多く、反省ばかりが頭を過ぎっていた私に、参加して下さっていたＴ君のお祖父さんが、「先生、どこにも負けん、一番じゃ、一番の立派な運動会でした」と慰めと励ましの言葉をかけてくださったのです。この方は、国体に愛媛県代表の選手を引率して行く役目の方でした。このような人のやさしさが、東京パラリンピックの感動に繋がるのでしょう。涙、涙、です。

やがて佐藤先生ご夫妻は古町教会に移られ、城南高校のチャプレン岡本加都夫先生ご夫妻が、主事として学園の責任と面倒を見てくださることになりました。私事では、私の仕事を大切に思い心配し母と共に祈ってくれていた父が亡くなり、母と私、妹の三人で松山に新しく居を構えました。妹は、東雲短大保育科の一期生で、松山教会附属石手川幼稚園に勤めていました。当時の職員、保護者一体となってあゆみ学園を支えていたことも知っていただきたいので、後ほど紹介させて頂きます。

さて、ある日のこと、ＮＨＫの松山放送局の鈴木アナウンサーが取材に訪れ、学園の様子をカメラに納めて帰りました。それは丁寧に編集されてローカル番組としてテレビで流れ、それを機にあゆみ学園が広く地域に知られるようになりました。次々と、新聞社からの取材があり、内容が良かったと愛媛大学教授の沢田先生にもほめて頂きました。沢山の方の目にとまり、花やプレゼント等をいただいたり、福祉に力を入れはじめた国会議員の方も見学に来られました。ライオンズクラブから通園バスの新車が寄贈され、いろいろな

事が、山下牧師の計画通り認可施設へとあゆみ始めました。その頃、仲間と連れ立って時々ボランティアに来ていたのが森君（現あゆみ学園理事長）で、滑り台を作ったり、木工や絵を描いたりと色々でしたが、中でも面白くておどろいたのは、寸劇の西部劇でした。ほかの人たちとはひと味異なり、別世界の人に出会った感じでいました。
やがて矢野君に変わって森君が通園バスを運転するようになり、昭和四十四年（1969）社会福祉法人あゆみ学園が認可されて園児の数も一気に増えました。

通園バスの運転は、子どもたちのめんどうを見ながら、一台の車で松山中を２コースに分けて８の字に走ります。朝夕２時間ずつの運転は神技のようでした。

職員の給与も倍増し、これまでなかった社会保険にも加入してもらい、あゆみ学園での生活が充実した時期でしたが、認可されたことで悲しい別れもありました。幼児の施設として認可されたことで、制度上別の施設に変わらなければならない子も出てきました。
幼児施設として認可されたからです。

私事ですが結婚をし、一年後につわりに悩まされて通園バスに乗れなくなり、迷惑をかけたくないと思って退職し私のあゆみ学園が終わりました。

その後、地域活動をガンバリながら牧師の夫に従い、短大学長の二宮源兵衛先生の祈りと願いを引き継いで東雲短大の中のチャペルや桑原伝道所の活動を行い、地域の方、短大生、地域の子どもたちとかかわっておりましたが、主人の帰郷とともに福知山に移り、みどり保育園で地域の子どもたちと関わることになりました。

その後、山下萬里先生は東京の国分寺教会の牧師になり、松山教会の牧師は平山武秀先生になりました。森君は、あゆみ学園を退職して夫婦で保育園を創設し、幼稚園として松山では知名度も信頼度も高かった松山教会附属石手川幼稚園は、時代の中に消えたのでした。

遠い昔の、あゆみ学園と石手川幼稚園の思い出。

浜　いづみ（野波志都子氏の実妹）

松山教会の牧師が山下先生の時、私は教会附属の石手川幼稚園で働いていました。その頃、教会も幼稚園も、あゆみ学園を軌道にのせるために熱心に活動していました。幼稚園では、あゆみ学園を支援すべく、年一度のバザーの収益金は全額寄付しておりました。小規模ではありますが、職員と保護者のこころのこもったバザーでした。本格的に出汁をとったおうどん。ちらし寿司も本職のお寿司屋さんが弟子を連れて食べに来てくれるほどのものでした。手芸品も本格的に手の込んだものでした。私はこの時、奉仕するということは全身全霊でするものだと学びました。

当時保護者から、収益金が全額あゆみ学園に渡され、幼稚園児に使われないことに不満の声がありましたが、主任の三瀬先生が保護者を説得しみなさま全力で協力してくださいました。遠い昔の、あゆみ学園と石手川幼稚園の思い出です。

あゆみをとめないで

旧職員　下光　博之

あゆみ学園創立六十周年、おめでとうございます。

僕は、二十世紀の最後の十五年位を児童指導員として過ごさせていただきました。

思い出というのは、大抵の場合、都合が悪い所は忘れてしまって、良い所取りで構築され、楽しく美しい事として記憶されるそうですけれど、まさに僕のケースもそれがあてはまるようです。

療育は好きにさせてもらって、思い付くもの紹介されるものを何でも試せたし、そうかと思うと時間を気にせず散歩に出かけたり、芝生の上でずっと水遊びしたり、行事もいっぱいあって工夫できて本当に「思い出のアルバム」の曲の世界そのものでした。

丁度、療育技法が次々と紹介されていた時で、感覚統合・ポーテージ・インリアル・ワシントン大学法・ティーチ・抱っこ法・動作法・音楽療法…とまぁ、よく勉強もさせていただきました。松山には複数施設があって、交流もあって、互いに批評しあえる環境も整っていたのも幸いでした（老舗はあゆみですけどね)。

今の保護者の方々にとっては、それで療育を受けた子どもがどう育ったのか、を知ろうと思えば観れるので一ついい時代になったなと思います。一般的にも認知は進んだのではないでしょうか。一方、イノベーションはどうなの？とも思いますが、現場を離れている者にはなかなか見えません。

法人としての「あゆみ」も色々と事業展開されていて、きっと、必要とされる方々に寄り添ってこられたのだろうとリスペクトしています。

現在、僕は重度重複障害の方々が居る施設に勤めています。いかにして衰えを先に伸ばせるかを考える局面も多くて「できた」が好きな身としては複雑です。

自分で変わったな、と思う点は、あの頃は一寸でも早くに療育を始めて、成人の頃には自立できるように、が目標の一番目だったのが、必ずしも就労しなくていい、と思うようになった事でしょうか。

それでも教育学部出身でライフワークは、やっぱ教育でしょ、とも思っているので一冊紹介しましょう。―ダニエル・グリーンバーグ著、大沼安史訳、「世界一素敵な学校・改訂新版・サドベリー・バレー物語」―

ヒントはみつかるヨ。

６０年のあゆみおめでとう！

旧職員　松田　ちから

あゆみ学園には私のライフステージのうち16年間を過ごし、その間に最高の贈物を戴いた。それは、子どもの心に寄り添うことの難しさを知り、自分が変わることの重要性を学ぶ。そして、大人も子どもも人間関係においては同じ姿勢で関わることの大切さを理解する。楽しかったことは子どもたちとの出会いから、オリジナルのお遊ぎの歌や手作りおもちゃがいっぱいうまれたこと。嬉しかったことは私の作った歌をギターのリズムに合わせ笑顔で口ずさみお遊ぎをする子どもたちがいたこと。又、子どもたちと親御さんから教えられたことを本に出版させて頂いた等、数え切れないほど心の糧を与えて戴いた。感謝の気持ちで一杯である。

今、これらの贈物をお返しする為に、将来の福祉・教育を担う愛媛大学の若き学生に、あゆみで出会った多くの皆さんから得た学びを「障がい児保育」の講義にて、伝授している。

今、発達に心配りを必要とする子どもたちに関わる方々にお伝えしたいことがある。それは、子どもの発達プロセスには子どもの意見表明である「だだこね」があること。私たち大人は子育てにおいて『子どもの「だだこねしたい気持ち」に寄り添うこと』が大切であることを知って頂きたい。【※だだこねの対応は、必ずしも子どものあらゆる要求に応じることではない】だだこねの気持ちに寄り添うことに力を注ぐことが子どもアドボカシーに繋がる。大人がこのような関わり方に心がけることによって、いずれ、子どもは自尊感情を育み、周りの他者にも思いやりの心が育つようになる。

最後に、もう一つ提案をしたい。子どもたちが「あゆみ」で支援者スタッフと仲良くなり、その育まれたコミュニケーション機能を卒園後も活用し、是非、交流を続けて欲しい。それは、「あゆみ」での良き出会いを途絶えることなく、親御さんの了解が得て、個人的に改めて、お互いの住所等の連絡先を交わし、年に１回の挨拶の年賀状のやりとりでもいいから、お互いの近況の情報交換を行うことで、子どもたちの成長を見守ってゆける環境に整えることを願っている。

★＝おまけ情報＝★

♪心癒されるオルゴールの音色：オルガニートによるオリジナルお遊ぎコンサート♪

開催のために準備しています。早くコロナが収束し、皆さんにお会いしたいです。

ギターことりちゃん

日程は未定

流れの一滴

旧職員　亀井　紀子

「あゆみ学園」の 60 年のあゆみは、私の人生の 2/3 を占めています。

2 代目園長の頃、縁あって学園勤めが始まりました。現在の JR 市坪駅の近くに「坊ちゃんスタジアム」など市民の運動施設が建ち上る前、2 つの河（石手川、重信川）にはさまれた田園の中、「大草原の小さな家」のごとき「あゆみ学園」に就職したのでした。宮崎先生手作りのオムスビを頬ばり乍ら、土手の土筆とりを子供たちと競い合い、山羊を追いかけまわし、土手すべりに時間を忘れて興じたりと、子供たちの心と身体のバランスに心を遣う毎日でした。

新しい制度が施行され、新園舎や遊ギ室、温水プールと施設も拡充されて行きました。それにつれ「あゆみ学園」もより専門性の高い幼児通所施設として、求められる様になり、私もこのままではいけないと、1 年間休職をお願いし、東京の社会福祉事業大学に通うことにしたのもこの頃でした。

その後、総合公園建設事業が進展し、現在の余戸への移転が決まり、施設の充実が進むこととなったのです。

「あゆみ学園」の母体は「松山教会」であり、1 代目山下牧師と多くの信者の方々による「最初の一滴」となりました。この一滴はやがていくつかの支流をあつめて川となり、卒園生さん保護者さんの心の拠りどころとなっていることを心からよろこんでいる私ですが、これからも園生（利用者）が「主人公」である「あゆみ学園」の伝統を受け継ぎ、ますます発展されることを心よりお祈りしております。

最後に、いろいろな想い出がつまる「あゆみ学園」を無事定年まで勤めさせていただいたことが、今の私の一生の宝ものです。

現在の私は？「グループホーム」で世話人をさせていただき、利用者さんからエールをいただいている 77 才です。

思　い　出

旧職員　池田　美智子

あゆみ学園 60 周年を心よりお慶び申し上げます。

私は、１９８７年に今の松山市中央公園の南駐車場あたりにあったあゆみ学園に給食調理員として就職しました。当時のあゆみ学園は簡素な木造園舎でしたが、周辺が市街化調整区域だったこともあって、あたりには市坪の田園地帯や重信川の河川風景が広がり、春は菜の花、秋にはコスモスの花が咲き乱れるのどかで自然豊かなところでした。毎日、お子さんの好きな献立・調理に工夫をしながら、そのお返しに子どもたちからはたくさんの笑顔を頂き、幸せで楽しい毎日を過ごしておりました。

就職から８年たった１９９５年、予期していなかった松山市の中央公園建設計画が発表され、それに伴うあゆみ学園の土地収用と現在地への移転計画が急浮上することになりました。その対応にあたるため、急遽、私はそれまでの調理の仕事から施設移転事務担当者になり、なんの経験もないまま、ただただ一生懸命ということだけを頼りに移転に伴う大仕事に携わることになりました。

１９９６年には現在地の余戸南６丁目に新園舎が完成し、８月の園児の夏休み期間中を利用して引越しをすることになりましたが、経費を節約するために業者を頼まず、職員やボランティアの方々総がかりで新しい園舎への引越し作業にあたりました。

机・ロッカー・大型調理器具等の汚れ落とし作業、また荷物の運搬には知人や関係者の方に運転等の協力をしていただきました。夏休みが終った二学期に入ってからも、園児の降園後に旧園舎（市坪）へ向かい、ホコリまみれになりながら古い荷物の片付けや廃棄物の処理などを行いました。この時の作業はとても大変だったので、今でもその時の光景を思い出します。

引越しの後は、地域の方々との関係づくりに取り組みました。地域で最初の福祉施設だったので、毎日近隣のお宅を訪問し、理解・協力をお願いしました。学園の行事の夕涼み会、運動会等にも地域の皆さんを招待し、余土小学校、余土中学校、城南高校、東雲短大、愛媛大学等の学生さん達にボランティアとして参加いただくことなどにも力を入れました。そうした活動を積み重ねていくうちに、地域の人たちに支えられ、いつでも気軽に立ち寄れる現在のあゆみ学園が形づくられていったように思います。

また、２００６年のあゆみ作業所開設には、地域の方々やご寄付を頂いた多くの皆様には大変お世話になったことも思い出します。

その後、社会福祉法人あゆみ学園は、事業の名称変更で児童発達支援センターあゆみ学園・児童発達支援事業どんぐり・多機能型事業所あゆみ・多機能保育事業所あゆみなどへ事業を拡大し、活動や支援の範囲は松山市をはじめ周辺市町全域にわたっていることは皆様ご存知の通りです。

最後になりましたが、人生の後半を意義ある仕事に携わる事が出来た事の感謝とともに、あゆみ学園の今後益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。

「あゆみ学園 60 周年に寄せて」

多機能型事業所あゆみ 元管理者　真鍋 孝夫

この度は、「あゆみ学園 60 周年」を迎えられ、誠におめでとうございます。

私は亀井紀子施設長さんの後任として 7 年間お世話になりました。施設経営の引継ぎに当りましては、保護者の意向としてグループホームの設置希望があること。また、職員研修の必要性や施設利用者の確保が必要であることをお聞きしました。これら指摘された内容は、当時どの施設も抱えている課題でもありました。

職員の研修につきましては、県外の研修会に参加できるようにすると共に研修会に参加した際は、研修内容や新しい情報を法人内研修会等で報告するなど職員の研修に努め、利用者の支援に活かせるようにしました。

利用者の確保については、学校等に出向いて支援の目標や内容を丁寧に説明し、関係者が本施設に来られた際は、支援の様子や利用者の活動の様子を見て頂き理解に努めました。

お陰様で施設の利用率は 100%超える日もあり、高い稼働率となりました。

このことは事業所内の資金積立てや職員の処遇改善につながりました。

グループホームの設置については、資金面からも考えられるようになり、父母の会の代表者等と話し合いを持つと共にアンケートを取った結果すぐにでも利用したい方はおられず、利用はいずれしたいけれど今は利用を希望しないとの意見でありました。

この頃、厚生省から、内部留保としてため込んでいる資金を必要分は除いてすべて地域の公益活動や職員の処遇改善などに使うよう義務付ける方針が示されました。

森理事長さんを中心に関係者と協議を重ね、ビニールハウス２棟を含む道沿いの三角農地の購入をする事に致しました。

また、本施設職員の駐車場はあゆみ学園の駐車場を利用させて頂いておりましたが、手狭となってきている事や本施設がいずれ直面するグループホームやショートステイの設置、その他、多目的に利用する土地として今後必要と考え、本施設隣の橋本鉄筋様の土地を購入させて頂きました。

今後、多機能型事業所あゆみが、本施設の利用希望者一人一人の願いや思いをかなえられる施設・受け皿を整えられ、利用者が安心して将来の生活自立や社会自立を目指して利用できる施設でありますように。また、全職員が一丸となって支援に努められ素晴らしい施設づくりに努められますことを心より願っております。

「あゆみに来てよかった」と言われるように

多機能型事業所あゆみ　前管理者　喜安　勝也

今、「あゆみ（その 20 年の足跡)」、「あゆみのあゆみ―40 周年記念誌―」の 2 冊の記念誌に目を通している。今年度、3 冊目のあゆみ学園創立 60 周年（法人 50 周年）記念誌が編纂されるにあたって、その歴史に思いを馳せる。

そこには、1960 年（昭和 35 年）4 月のあゆみ学園創立に至る経緯、その後の 1969 年（昭和 44 年）2 月社会福祉法人設立までの苦難の数々、1979 年（昭和 54 年）4 月の養護学校（現在の特別支援学校）義務化に伴う就学への移行、その他様々な想像を絶する困難が記され、関係者の方々の熱意と尽力によって乗り越えてきた足跡に胸が締め付けられる。

正に、日本基督教団松山教会の牧師・信徒の皆様の信仰による慈愛と奉仕の年輪であり、神様から与えられた不撓不屈の賜物の成せる業だと思う。私たちは、この事実を深く受け止めて次世代に繋いでいかなければならない。

こうした諸先輩方の築かれた土台の上に、多機能型事業所あゆみは、創立から 46 年を経て、2006 年（平成 18 年）7 月障害者自立支援法の施行に伴って、「知的障害者通所授産施設あゆみ作業所」として産声をあげた。

当施設も松山教会信徒の篤志家による御厚意により、あゆみ学園の向かい側用地に整備され、成人の知的障がい者の通所施設として発足できた。

その後、2012 年（平成 24 年）4 月障害者総合支援法が新たに制定され、「多機能型事業所あゆみ（生活介護事業・定員 26 名、就労継続支援Ｂ型事業・定員 14 名)」として再編・移行し、それに伴って別館が増設された。

また、2019 年（令和元年）には、その 2 年前に取得した隣接地にビニールハウス 2 棟増設及び本館大規模改修、翌年に施設入口の整備舗装工事を行うなど、支援内容・サービスの充実とともに、施設整備も順次図られてきた。

私は、真鍋孝夫前管理者の後を受けて、2018 年度（平成 30 年度）よりバトンを引き継がせていただいて 4 年目となった。諸先輩の歩みを継承しつつ、「仲良く（協力)、楽しく（笑顔)、優しく（思いやり)」をキャッチフレーズとして利用者の皆さんに寄り添いながら、家族会や地域・関係者の皆様に助けられて今日を迎えることができ、心から感謝の気持ちで一杯である。

あゆみの強みは、創設以来 60 年の歩みが培った温かい人の絆と「アット・ホーム」な家族愛にあると思われる。これからも、利用者の皆さんに「あゆみに来てよかった。みんなと一緒に楽しく過ごすことができて幸せです。」と言ってもらえるように、みんなで手を取り合って前に進んでいきたい。

児童発達支援センター　あゆみ学園

児童発達支援事業　どんぐり

あゆみ学園指定相談支援事業

あゆみのＤＮＡ

管理者　武智　一郎

私があゆみ学園にやってきたのは、平成２３年（２０１１年）の春だったから、もう１１年も前のことになる。当時の学園冊子『あゆみ』にも書いたが、私があゆみ学園を知ったのは昭和４７年（１９７２年）頃のことである。当時学生だった私は知り合いに誘われてあゆみ学園の運動会を見に行った。市坪ののどかな風景の中で一生懸命頑張っている子どもたち（随分大きい子もいた）。そして表裏一体となって影のように寄り添う大人たち。その体験が私の原点であったとでも言えれば格好いいのだが、当時はただ不思議なものを見るような感覚で眺めていた。

あゆみ学園がこの世に産声を上げたのが昭和３５年（１９６０年）だから、私とあゆみ学園との出会いは、あゆみ学園が１２歳、社会福祉法人としてのあゆみ学園は設立３年程度であったかと思う。周囲に何もない市坪の川辺の土地で、建物も今と比べればささやかなものであったが、そこで活動する職員は随分活き活きとしていたような気がする。

そのあゆみ学園も還暦を越した現在、この余戸の地に園舎を構え、児童発達支援から就労継続支援Ｂ型、生活介護、相談支援事業、更には畑寺においては保育事業を展開するなど、規模としては大きくないが、社会福祉法人としての体裁をしっかりと整えてきた。職員数も７０人を数えるまでになった。この姿を見ていて、私はふと自問する。『私たちは長年のうちにあゆみ学園設立当初の気持ちが薄らいではいないだろうか』と。

発足当時のあゆみ学園の職員は、困っている子どもや親を目の当たりにして、その気持ちに心底共感し、自分たちがなんとかせねばという気持ちに突き動かされていた。その気持ちをそのまま６０年に渡って今の組織の中で浸透させていこうというのは無理がある。しかし根本において私たちのモチベーションの源である『利用者に寄り添い、その悲しみに心を痛め、その喜びに心を躍らせる』は変わってない。その証として、社会福祉法人あゆみ学園の職員の姿には、私が昔出会った黎明期の職員と同じ活気と目の輝きが失われることなく宿っている。組織としてのあゆみ学園はその成り立ちや心のありようを職員に対して日々伝えているわけではない。昔のことなど知らない職員がほとんどだろう。しかし学園のＤＮＡは、６０年を超えて確かに受け継がれている。私の目にはそう映るのである。

あゆみ学園とともに

あゆみ学園　児童発達支援管理責任者　今村　高博

社会福祉法人あゆみ学園　創立６０周年おめでとうございます。

私があゆみ学園に入職したのが平成１０年の４月。気が付けば私の人生の半分の２５年が経過しました。

当時はまだ市坪から現在の余戸南へ移転して間もない頃で、移転と言う大きな事業を終え、「これから中身の充実を」という時期だったように思います。今はなき保育専門学校での実習を通じてそれを感じ、就職を決めたことを思い出します。

改めてこの２５年を振り返ると激動の２５年だったように思います。制度はめまぐるしく変わり、それに伴い事業を開始したり体制を変えたりの繰り返しでした。

平成１５年には措置制度から支援費制度へと大きく転換し、規制緩和により様々な経営主体の新規事業所が参入。あゆみ学園も第１種社会福祉事業から第２種社会福祉事業へ移行し、児童福祉法の改正により名称も変更。この間には保育所等訪問支援や放課後等デイサービスといった新しい事業も立ち上がり、以前とは比べようがないほど様々な事業所ができました。そして令和６年度の改正には、あゆみ学園などの児童発達支援センターには地域の中核機能としても位置づけがより明確にされ、今後より一層地域から社会から求め得られる事柄は大きくなっていくことが予想されます。

私自身の業務も現場の保育士からコーディネーター（相談支援専門員）、そして法人を超えて相談センターへの出向も経験させてもらいました。そして今では児童発達支援管理責任者と言う職務に就かせていただいております。

この激動の時期に多様な職務に就かせていただいたおかげで、様々な制度を理解したり地域や組織とのつながりが出来たりしたことは何よりの私の財産になっています。このような誰にでも経験できるわけではない職務に就かせていただき、貴重な経験をさせていただいた法人に本当に感謝しております。

数年前の話になりますが、私が入職したての頃に卒園した園児が成人式を迎えたのを機にその保護者から連絡がありました。その園児とは小学校や中学校などステージが変わった節目などに時折連絡をいただいていたのですが、ある時、その保護者の方が何気なく発した言葉があります。

「まだあゆみ学園があって良かったわ。今村先生もおってくれて良かった。」

私の中では当たり前に思っていたこと、気が付けば時が過ぎていただけのことなのに、利用者側にとっては**「存在し続けること」**がいかに大切なことなのか、この言葉を聞いて考えさせられました。

これからも福祉情勢はもちろん、少子化など社会情勢も変化し続けていくことでしょう。しかし、地域や利用者にとって必要な場所として存在し続けていけるよう、あゆみ学園とともに歩んでいきたいと思います。

どんぐりと外来事業にかかわって

どんぐり　児童発達支援管理責任者　黒川　真紀

社会福祉法人あゆみ学園　創立６０周年おめでとうございます。

どんぐりは、平成１５年、児童デイサービスとして開所し、今年で約２０年が経ちました。私は、平成２０年からどんぐりに配属させて頂き、今まで法人内で移動はありましたが、約１０年間はどんぐりの職員として勤務させて頂いております。

私が最初にどんぐりに配属された当初は、市内に事業所は数ヶ所しかなく、母子分離で療育を行う事業所は唯一どんぐりだけでした。平成２４年の法改正により、「児童発達支援事業所どんぐり」と名称が変わり、時代の流れと共に、市内にも事業所が徐々に増え、ここ数年で数倍にもなりました。色々な特色のある事業所が増え、保護者のニーズに合わせて様々なサービスを提供したりして、保護者が事業所を選べるようになってきました。その中で、子どもと保護者にとってより良い事業所になるよう支援の質を高めていくことが大切であると痛感しています。

また、療育等支援事業では、巡回や施設支援などの仕事もさせて頂いています。幼稚園や認定こども園、保育園、他事業所を併用している利用児も多く、地域や様々な機関との連携を取りながら支援を行っています。情報交換をしたり、関わり方や環境について先生方と一緒に考えたりしながら、子ども達が地域で安心して暮らせるように今後も地域とのつながりを大切にしていきたいと思います。

日々、子ども達と触れ合う中で、子ども達が安心して生活できるように、楽しく過ごせるようにするために、特性を理解しながら様々な支援を試行錯誤しながら療育をしています。子どもとの関わりには、どれが正解なのかはわかりません。その子と向き合って、大人の方から歩み寄り、どうすれば出来るようになるのか、興味を持ってくれるのか、どうすれば楽しんでくれるのかを考えて様々な工夫を行い、子どもが笑顔になった時には、「ヤッター！！」と心の中で、これが正解だった！と大喜びしています。こんな風に、どんなことでも子どもに寄り添いながら、子どもの笑顔が少しでも増えるように支援を続けていこうと思います。

自分自身、この仕事をする中で、子ども達や保護者の方々からたくさん学ぶことがありました。子ども達と向き合うことで、自分自身を見つめ直したり、子どもを変えるのではなく、私たち大人が変わることで子どもが反応したり成長したり、心が通じ合ったりすることを実感することができました。また、保護者の方々とは、どんな小さなことでも一緒に考えて、その子にとって楽しいこと、つらいこと、これからのことを一緒に乗り越えていけるようにたくさんお話をして一緒に子育てをしていきたいと思います。

どんぐりや外来に通って、色々な経験をして、嬉しいことも楽しいことも頑張ったことも全部、少しでもみんなの心の中に残ってくれたらいいなと思っています。全ての子どもが自分に自信を持って、個性を生かしながら楽しく生きていける世の中になることを願っています。

６０歳のあゆみ学園

相談支援専門員　梶原　佳代

社会福祉法人あゆみ学園６０周年お慶び申し上げます。

社会福祉法人あゆみ学園の相談事業は、昭和５４年９月の母子通園事業の相談部門から始まったようです。（「あゆみ学園の沿革」参照）その後、正式には平成１３年１０月委託を受け、地域療育等支援事業の一環のコーディネーター事業として相談事業が開始しました。当時は松山市・松前町・伊予市・砥部町・東温市・久万高原町の６市町中予圏域からの委託を受け、児童さん・成人さんの基本相談を担当しておりました。その後、法律改正に伴い、平成１８年からは、あゆみ学園指定相談支援事業所として、児童さんの基本相談・中予圏域の指定障害児相談支援・指定特定相談支援・指定一般相談支援（計画相談）・また市町の委託に関しましては、松前町の委託相談（基本相談）のみ継続となり、主に３つの相談を担当し、現在の形となっております。

私はこのあゆみ学園に、平成１６年４月入社しました。早いもので約１９年。入社当初クラス担任を担当させていただいた後、平成２１年に現在の相談業務に異動し、相談支援専門員としての職歴の方が随分長くなりました。相談業務を担当した当初、何も分からない私でしたが、前任のあゆみ学園の相談支援専門員からは、相談業務内容のことはもちろん、それだけでなく、人と接することの基本等、本等では学べない実際人と接することで感じること等、とても多くのことを教えていただき、本当に感謝しております。それと共に、職種柄、あゆみ学園内に限らず、他の福祉サービス事業所、幼稚園、保育園、学校、病院、役場関係等、あゆみ学園以外の方と関わりが増え、様々な職種の人と接する機会が多くなりました。１つの事柄でも、様々な立場の人からの意見を聞くことができたり、様々な立場の人からの見方を学ぶことができたりと、私自身とても成長することができたと感じております。

私の人生の半分近く過ごしたあゆみ学園。このあゆみ学園の歴史と共に、自分自身成長させていただいていると感じております。ここで学んだことを、利用者さんや家族さんに還元できるように、インフォーマルなサービスも含めた社会資源を提供・改善・開拓し、その地域に住む人、支援サービス提供者等を、包括的につなげることができる、相談支援専門員でありたいと思っております。

また、社会福祉法人あゆみ学園が開設されました昭和３５年、偶然にも現在の天皇陛下のお生まれの年でした。天皇陛下と同じ年のあゆみ学園。これからも引き続き、あゆみ学園の素敵な歴史に、私も今後も携われことに嬉しくもあり、このような環境にいられることにも感謝しながら、日々精進していきたいと思います。

事務職として

事務主任　安藤　隆文

今回、６０周年記念誌の原稿を執筆するにあたり、はたして、自分が今の職責を全うできているのか、これまでのあゆみ学園の歴史を顧みて考える機会を与えられたことに感謝します。

私は、事務職として平成 15 年 4 月から採用されました。その日から、現在に至るまであっという間に過ぎてしまったように思います。

職業柄、これまで様々な種類の施設整備等に数多く携わらせていただきました。

送迎車両の更新、園舎の外壁塗装・屋根防水工事、園児のトイレ室改修工事、プール室の多目的ホールへの改修等々。列挙するときりがありませんがあらゆる整備事業を経験させていただきました。

その中でも強く印象に残っているのが、2006 年（平成 18 年）7 月に開所した多機能型事業所あゆみの施設整備事業です。あゆみ学園を応援してくださる方々の悲願でもありました一大プロジェクトへ関わることとなったのは、自身入社 2 年目の時でありました。

当時、社会福祉事業の右も左も分からなかった私が、松山市へ施設整備費補助金の申請に始まり独立行政法人福祉医療機構へ整備費の借入申請、また、農地転用に関しては、行政書士と協力して作業を進めたこと、その後の建設工事等、これら一連の承認を受けるためその都度開催される理事会と評議員会まで多岐にわたりました。通常業務に加え、次から次へと押し寄せる波のように施設整備の業務に追われ、何度、途方に暮れてしまうことがあったでしょうか。立ち止まる度に、自身若かったこともあり、「当たって砕けろ！」のチャレンジ精神で何とか波を乗り越え、行政の指導も仰ぎ、さらには、当時の園長と事務長からの温かい助け船もあって役目を果たすことができたのではないかと思います。当時、ご縁のあった方々には、感謝の気持ちを忘れることはありません。これらの経験が糧となり、その後の多機能型事業所あゆみの施設増築でも役立つこととなりました。「経験の糧」ともいうべきであろうその施設整備のデータは、今はもう開くこともありませんがパソコンの中の片隅で眠っています。これは私の宝物としてこれからも保存していきたいと思います。

私は福祉の専門的な知識は持ち合わせていませんが、あゆみ学園で日々園児と職員が笑顔で接する姿を間近でいつも見ています。その光景は何物にも代えがたく疲れた心が癒され安心感に包まれます。ここで務めさせて頂いていて幸せなひと時であります。

これからも歴代の諸先輩方の意思を受け継ぎ、日々の感謝を忘れずに少しでもあゆみ学園が担う役割の一助となるよう、これからも成長していきたいと思います。

児童発達支援センターあゆみ学園の活動

◆ 発達支援方針 ◆

子どもたち一人ひとりの特性やニーズに応じた個別的な支援を目指します

① 子どもの個性や保護者のニーズを重視し、個々に対応した具体的な支援（援助）内容の提示と実践をおこないます。

② 将来の生活を念頭に入れ、社会で豊かに暮らしていくために必要な力（生活技術力、コミュニケーションする力、自分で決めて自分で選ぶ力）を育てます。

③ 子どもの育ちに必要な「意欲」「安心感」を保障し、“認められている”“必要とされている”と感じる経験を通して、「自己肯定感」や「自信」を育みます。

④子育ての支援を通して、地域生活の基盤となる家族・家庭を支えます。

◆ 発達支援内容 ◆

○クラス活動

１クラスが１０人程度の小集団になります。クラスは、年齢と発達の特性等を考慮して４クラスに編成しています。

①いろいろな「あそび」場面を設定して、心身の成長・発達を促します。

②生活のリズムを整え、生活習慣をつくる援助をします。

③家庭との連携を密にし、よりよい生活を過ごせるように支援します。

○グループ活動

あそび、対人関係、運動などの発達状況によって編成した小グループで、それぞれの集団に応じた活動を行ないます。

○個別支援

子どもと保護者と職員で行ないます。

個々に合わせた課題等を行なったり、保護者の方との相談をしたりしながら、子どもの発達段階や発達の特性に応じた支援を行ないます。

○プール活動

健康なからだづくり、親子のスキンシップ、社会性の育成、運動機能の促進などをねらいとして月２回程度、年間を通して実施しています。

○専門スタッフによる支援

作業療法士、言語聴覚士などの専門スタッフが、個別相談や発達検査を行なったり、専門的な視点から子どもたちを支援したりします。

○交流保育

地域の保育園・幼稚園と交流し、あそびや社会性を広げ、相互の理解が深まることをねらいとしています。保育園・幼稚園の児が来園したり、保育園・幼稚園を訪問したりしています。

○給食

毎日、園で給食を用意します。

食生活が豊かになるよう献立や調理方法などを工夫しています。

楽しく食事をする中で、食事のマナーやスプーン等の扱い方などを支援します。

○送迎

送迎場所まで、バス・ワゴン車で送迎します。

◆　日課表　◆

<table>
<tr><th>時間</th><th>月・火・木・金の流れ</th><th colspan="4">内　　容</th></tr>
<tr><td></td><td>登園</td><td colspan="4">車内指導・個別支援</td></tr>
<tr><td>10:00
10:10
10:20</td><td>バス到着
生活
マラソン・ラジオ体操</td><td colspan="4">受け入れ
健康観察・連絡帳確認・排せつ・着脱</td></tr>
<tr><td>10:40
11:30</td><td>クラス活動
活動修了</td><td colspan="4">集会</td></tr>
<tr><td rowspan="2">11:40

12:30
13:00</td><td rowspan="2">給食

生活
自由遊び
片付け</td><td rowspan="2">手洗い・配膳・食事
投薬
片付け・歯磨き・排せつ</td><td colspan="3">水曜日の流れ・土曜日の流れ</td></tr>
<tr><td>11:30

12:30
13:00</td><td>給食

自由遊び
片付け</td><td>手洗い・配膳・食事
投薬</td></tr>
<tr><td>13:10

13:50</td><td>クラス活動
グループ活動
活動修了</td><td></td><td>13:20
13:30</td><td>バス出発</td><td>園児確認
見送り
車内指導・個別支援</td></tr>
<tr><td>14:00

14:50</td><td>おやつ
生活</td><td>手洗い
排せつ・降園準備
園児確認</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>15:00</td><td>バス出発</td><td>見送り
車内指導・個別支援</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>

※ 月に1回～2回、土曜登園日とします。行事等の都合により変更になることがあります。

※ 水曜日と土曜日は降園時間が通常よりも1.5時間早くなります。

※ 行事その他の都合により、日課を一部変更することがあります。

※ 夏季プログラム中は、日課を一部変更します。

◆　園行事　◆

季節	行　　事
春	入園式・始業式　　家庭訪問　　親子遠足　　クラス参観
夏	夕涼み会　　年長児おたのしみ保育
秋	運動会　　いもほり　　やきいも
冬	クリスマス祝会　　おおきくなった会（発表会）
	修了式・卒園式

※その他、誕生会 ・ 園外活動等があります。

クリスマス会には
サンタさんもやってきた！

一生懸命頑張った
運動会！

おみこし担いで
ワッショイ！

夏は水遊びや泥遊び
して遊んだよ。

児童発達支援事業どんぐりの活動

１．目的

発達に不安や心配のある乳幼児を対象に、利用契約の方法により、発達や育児に関する各種の相談に応じながら、必要な助言・支援を行い、子どもとそのご家庭を援助することを目的としています。

２．事業開始日　平成 15 年５月２日（平成 24 年４月より児童発達支援事業へ移行）

３．定　　員　１日１０人

４．職員体制　管理者１名　児童発達支援管理責任者１名　保育士４名

５．事業実施日　月曜日～金曜日まで　　および園の指定した土曜日

原則、日曜日・国民の祝日・年末年始はお休みとしています。

行事等の関係で休園日を開所する場合は振替休園となる場合があります。

その他、職員研修等で臨時休園となる場合があります。

６．ご利用地域　愛媛県内で　かつ通園に支障のない範囲

７．通園形態　年齢ごとに分かれた単独通園（母子分離）

８．実施時間　９：３０～１３：３０まで

９．ご利用日　●年長児・・・主に木曜日　　●年中児・・・主に月曜日

●年少児・・・主に火曜日　　●１・２才児・・・主に水曜日・金曜日

10. 主な日課

時　間	主　な　内　容
９：３０	○保護者と登園 かばんの片付け　排せつ 自由遊び（部屋）
１０：００	○体操 ※年齢によって内容を変えています ○朝のあつまり 絵本　お名前よび　シールはり　予定の確認
１０：３０	○設定活動（内容はどんぐりだよりにてお知らせします） 制作　運動遊び　ごっこ遊び　など
１１：３０	○食事（お弁当になります） 片付け　歯みがき　排せつ 自由遊び（部屋・ホール・園庭など）
１３：００	○帰りのあつまり 絵本　活動の振り返り
１３：３０	○保護者お迎え

粘土やままごとで
遊んだよ！！

三輪車で
しゅっぱーっつ！！

お散歩に行ったり、
いちご狩りにも行ったよ！

職員一同

あゆみ学園 創立60周年
おめでとうございます！
今後もあゆみ学園とともに
成長したいと思います。
橋本 沙紀

あゆみ学園 創立60周年
おめでとうございます。
これからもいろんなことにはげ
し、一緒に成長していきたいと
思います。
西澤 真凜

あゆみの旧園舎すぐそばの
土手沿いが私の子どもの頃の
マラソンコースでした。写真を
見るたび、その頃を懐かしく思い、
あゆみの歴史を感じます。
これからも微力ですが、あゆみの
ために頑張っていきます。池田幸江

あゆみ学園 創立60周年
おめでとうございます。
今後の益々のご発展を
お祈り申し上げます。
冨谷 薫

あゆみ学園 創立60周年
おめでとうございます!!
共にお祝いできること、嬉しく
思います。1日1日を大事に
過ごしていきたいです。仙波梓

創立60周年
おめでとうございます。
あゆみ学園の一員として
今後も成長したいと思います。
能口 愛香

あゆみ学園 創立60周年
おめでとうございます。
一日一日を大切に過ごして
いきたいと思います。
谷久詠美

職員一同

法人設立60周年
おめでとうございます。
これからも、理念、基本方針を
忘れることなく、地域社会に
貢献できるよう、尽力いたします
武内康明

60周年
おめでとうございます
これからも安全でおいしい
給食を作ります！
油井千佳

創立60周年
おめでとうございます
たくさんの笑顔と種に
今後もあゆみ続けていけるよう
日々を重ねていきたいと思います。
岡本

あゆみ学園 設立60周年
おめでとうございます。
今後の更なる発展を
お祈りします。 假水美文

60周年 心よりおめでとう
ございます。これからも
あゆみ学園の一員として
精一杯務めています。
宇都宮六樹

あゆみ学園創立60周年
おめでとうございます。
今後も1日1日大切にし
共に成長していきます。
竹田千晴

あゆみ学園 創立60周年
おめでとうございます。
これからも共に成長して
いきたいと思います。
沼谷美里

多機能型事業所あゆみ

６０周年記念に寄せて

管理者　渡部 剛

まずあゆみ学園６０周年（法人５０周年）のお慶びとお祝いを申し上げます。戦後は終わったと言われ経済成長へまっしぐらの日本で、置き去りにされかけた障害児の福祉に気づき、その開拓と発展に情熱を注ぎ続けた青年達の信念と尽力に改めて敬意を表します。

さて、歳を重ねると何十周年記念とかによく遭遇します。８年前、高校卒業５０周年で母校の卒業式に招待され、ツヤツヤ肌の青春光する卒業生と対面しました。参列した同期生達も皆気分は１８歳でした。

４年前の秋には、自身の卒業式に招かれました。５４年前、今は死語になった「大学紛争」でキャンパスが封鎖され卒業式ができませんでした。卒業試験もなくレポートを出してゼミの教授の家で卒業証書をもらい、別れのすき焼きを御馳走になりました。それから５０年経って人生を振返る年頃になると、何とか自分達の卒業式を実現したい、という声が沸き起こり、それに大学が配慮し、５０年目にして「我々の」卒業式が挙行されました。そして、昔卒業式で読まれるハズだった祝辞が、５０年のホコリを払って登場し、出席者の前で現学長によって読み上げられると、時代を語るその言葉の一節一節に、二度と還らぬ血湧き肉躍るSturum und drang （疾風怒濤）の時を偲び、暫し夢多かりし甘酸っぱい青春の感慨に耽ったこともありました。

あれから半世紀働いて、これが有終の美となるかどうか、この度多機型事業所で最後のご奉公ができることになり、私には非常に幸運な事であり、幸福な事でもあります。

若い時にも福祉行政に携わりましたが、「国際障害者年」の熱気が冷めやらない頃で、次々と新しい事業を考え、施設の整備にも励みました。あゆみ学園に療育用プールを設置する補助金を支出した記憶もあります。

当時まだ日陰の分野だった障害者福祉にも次第に関心が高まり、ノーマライゼイションとかリハビリテーションという言葉とともに社会に理解が広まってきたのです。予算も増え、街で障害児者の姿を見かけることも多くなりました。

或る時、事務所からエレベーターホールに出ると、若い母親がバギー車に幼児を乗せ何かを待っているのに出くわしました。障害児を人目に晒すことが厭われた時代が過ぎようとしてはいましたが、昔の隠したがる雰囲気が残る中、やや恥ずかし気ながら決然とした母親の色白の顔と、袖なしのブラウスから伸びる白い腕、そして見開いた潤んだ眼がなぜか心に焼き付きました。今も忘れません。

異動もせずに仕事に熱中する私を訝る同僚もいましたが、あの時私は目覚め、そして夢を見たのだと思います。

最後に、更なる５０年後のあゆみ学園へ、更なる発展をお祈りしますとともに、多機能型事業所を宜しくお願いします。

皆様に支えられて

職業指導員　永井　壮

まずは、『社会福祉法人あゆみ学園様』設立６０周年おめでとうございます。
６０年。人に例えると還暦を迎えたわけです。もし人だったら、どんな方でしょうね。きっと分け隔てなく人を受け入れ、真面目で穏やかで、笑顔が素敵な方だと私は想像します。

６０年も継続できている社会福祉法人、改めてすごいと思います。

そんな素晴らしい法人の一員として私が勤務させて頂き始めたのが、約１７年前『通所授産施設あゆみ作業所』が設立される記念すべきタイミングでした。事業所の開所準備の為招集を受け、始めて行った仕事は、大げさに言うと『土地の開墾』でした。

現在、野菜を栽培している畑やビニールハウスになっている場所には元々みかんの木がたくさん植わっていました。野菜を栽培する為には、みかんの木を伐採する必要がありました。当時のあゆみ学園園長を中心とし、開所当時のメンバーで初めて触れるチェーンソーや草刈り機をへっぴり腰でなんとか扱い、悪戦苦闘しながら作業をすすめていきました。すべて作業を終えた時はとても清々しい気持ちになったのを今でも忘れません。

そうこうしているうちに『通所授産施設あゆみ作業所』がスタートを迎え、私が命を受けた担当作業は農作業でした。ほぼ無経験から始めたので、土づくりの段階から何も分からず失敗を繰り返し、そのプレッシャーから落ち込んでしまいそうになることも何度もありました。それでも利用者様方と過ごす日々は楽しく、皆様の笑顔を見ると暗い気持ちも吹き飛び、失敗してもめげずにチャレンジし、近隣の農家の方にアドバイスを頂いたり本で調べたりしながら試行錯誤を繰り返すうちに少しずつですが、売り物にできる農作物ができるようになりました。

また、その農作物をご購入して下さる地域のお客様や保護者様方には本当に感謝してもしきれません。その支えのおかげで利用者様に工賃をお渡しすることができ、農作業の道具も購入することができます。この場をお借りして、深くお礼申し上げます。ありがとうございます。

平成２４年には新体系に移行し、内部では『就労継続支援 B 型』と『生活介護』に分かれ、事業所の名称も『多機能型事業所あゆみに』変わりました。しかし、利用者様と保護者様に笑顔で安心できる毎日を過ごして頂きたいという気持ちは職員一同一つです。今後も変わることはございません。

人に例えると、１７歳でまだまだ青く成長途中の『多機能型事業所あゆみ』ですが、今後とも、皆様の温かい目で見守って頂けたら幸いです。

歩み　～Keep walking～

生活支援員　　酒井　嘉恵

多機能型事業所あゆみは、平成１８年７月に知的障がい者通所授産施設として「１８歳（１５歳）以上の知的障がい者で、雇用されることの困難な方が日々通所し、職業を持って自活することができるよう必要な訓練を行う施設」という理念のもと、あゆみ作業所としてスタートしました。

その頃、私はまだ在籍しておりませんでしたが、ここに職員として第一歩を踏み入れた瞬間、利用者様の生き生きと楽しそうに活動する様子などを見てあゆみ学園という法人が利用者様一人ひとりに寄り添いながら真摯に向き合っているのだと感じたことを思い出します。

その２年後、平成２４年４月から利用者様の障がい区分とニーズに応じた事業所形態へ移行という方向が制定し、「生活介護事業」と、「就労継続支援Ｂ型」の二事業を柱とした今の多機能型事業所あゆみとなりました。

その中で、生活介護事業では「常時介護を必要とする障がいのある利用者様に対し、基本的な生活能力の維持、向上に加え、自立した日常生活や社会生活を営むことができるよう、生活面での介護、及び生産活動（工賃活動）や余暇活動など、心身ともに豊かになれるような活動を提供し、必要な支援を行うことを目的としております。

その支援内容は、衣服の着脱・食事・排せつ・衛生・入浴・といった生活支援の他に、外出・運動・調理・創作・音楽・プールなどの余暇活動支援、また生産活動においては、業者から一部のお仕事を頂きゴムのバリ取りや箱折りなど多岐にわたります。

現在、コロナウイルス感染症の影響で自粛体制ではありますが、年間を通して季節ごとの全体行事も開催し利用者様に楽しんで頂いております。その他、嘱託医による年 3 回の健康診断や歯科医師による歯科検診、更にインフルエンザ予防集団接種をするなど健康管理にも気を配っております。

福祉の仕事は大変だと思われがちですが、障がいを持たれている方達の生活を支えるこの仕事は、むしろ楽しくてやりがいのある仕事です。コミュニケーションを取ることが困難で、身の回りのことにも周囲のサポートが必要な方達ですが、嬉しい、楽しい、好きとか嫌いといった感情、美味しいものが食べたい、楽しいことを沢山やりたい、色んな所に出かけたいという思いは私達と一緒です。「障がいを持つ人も、持たない人も、地域の中で生きる社会こそ当たり前の社会」（ノーマライゼーションの定義）と言われてるように、利用者様にとっての当たり前の居心地の良い多機能型事業所あゆみをさらに充実するために、今後も微力を尽くして取り組みます。

あゆみ学園と多機能型事業所あゆみ

家族会会長　野村りえ

娘があゆみ学園のお世話になったのは、30 年前、3 歳の時でした。24 週 686 g で産まれ、無事育つかどうか、目が見える様になるか、歩けるか、言葉が出るか、先の見えない毎日でした。時間はかかりましたが、一つずつ出来る事が増えました。今の様にサポートや情報が少ない中で、あゆみ学園での先生方やお母さん達と話をする事によって得られた情報が何よりの事でした。普通に当たり前に出来る事のむずかしさを知りました。今まで障がいについて知らなかった事に気づかせてもらい、娘には感謝です。

あゆみ学園に通うようになって、初めて親の手から離れて集団生活をしました。それまでは親子で療育の為訓練に行ったり、保健センター、福祉センターに通ったりと、常に私と一緒だったので、送迎バスのお迎えで顔を見るまで不安でしたが、本人はニコニコと帰ってきました。毎日嫌がる事もなく、元気に通う事ができました。楽しく過ごしていたのでしょうね。先生方の子供達に対しての愛情の深さに感謝しました。この経験があったからこそでしょうが、その後、愛媛保育園で受け入れて頂き、お友達の中でそれなりに活動する事が出来ました。

その後、高校卒業後、あゆみ作業所にお世話になる事になりました。娘が高校卒業する前の年に、あゆみ作業所が開設されました。

卒業後の進路に困っていた時だったので、本当にラッキーな事でした。迷う事無くお願いする事にしました。以来現在まで元気に通っています。日々の作業や行事で楽しく過ごしています。毎月頂く工賃を楽しみにしていて、趣味の為に使っています。支援員さんも、細かく目を配って下さり、自立の為のプログラムを策定し、それに従って指導して下さっています。

私は今、家族会の会長を仰せつかっていますが、最近の親御さんは忙しく、家族会への参加がむつかしく、皆でお話をする機会がなくなっているのを寂しく思っています。役につくのを負担に思われるかもしれませんが、雑談の中で色々役に立つ事が見つかるかも知れません。是非繋がりを作っていきたいと思っています。

私の好きな言葉は〝お互い様〟です。誰も一人では何も出来ません。私にできる事は協力しようと思い、日々暮らしております。

多機能型事業所あゆみ

【沿革】

２００６年（平成１８年）

７月　１日　知的障害者通所授産施設あゆみ作業所開設。
土地、建物 103,832,180 円（補助金 82,893,000 円）、備品等 894,60 円（補助金 843,313 円）、ハウス 2,493,960 円（補助金 2,021,000 円）。

２００７年（平成１９年）

３月２９日　日本財団様より補助金 2,220,000 円を頂き、トヨタハイエース（2,220,000 円）を購入。

２００９年（平成２１年）

６月　赤い羽根共同募金会様より補助金 1,500,000 円を頂き、日産セレナ（2,341,500 円）を購入。

２０１１年（平成２３年）

７月　松山市余戸南 6 丁目 2394 番 5 の畑地 330.59 ㎡（3,000,000 円）を購入し、生活介護棟の建設を進める。

２０１２年（平成２４年）

３月３１日　生活介護棟 144 ㎡が完成。総工費 22,522,500 円（国庫補助金 19,425,000 円）

４月　１日　法改正により、事業所名を改称。
『知的障害者通所授産施設あゆみ作業所』は『多機能型事業所あゆみ（就労継続支援Ｂ型、生活介護）』となる。

２０１３年（平成２５年）

６月　７日　清水基金様より 3,900,000 円の補助金を頂き、三菱ローザ（6,025,830 円）購入。

９月１９日　就労継続支援 B 型実習用地として、松山市余戸南 6 丁目 2394 番 5 の土地（いちじく畑）785 ㎡（7,170,000 円）を購入。

２０１４年（平成２６年）

１月３１日　日本財団様より補助金 539,160 円を頂き、ホンダアクティ（827,530 円）を購入。

２０１５年（平成２７年）

６月２９日　年賀寄付金様より補助金 841,764 円を頂き、トラクター（1,186,000 円）を購入。

２０１７年（平成２９年）

３月１７日　多機能型事業所あゆみ駐車場に安全を確保するため門扉を設置。

８月２１日　就労継続支援 B 型事業所用地として、松山市余戸南 6 丁目 2392 番 5 の土地 404 ㎡及び松山市余戸南 6 丁目 2393 番 3 の土地 1359 ㎡を購入。

１１月１６日　就労支援継続 B 型事業所用地として、松山市余戸南 6 丁目 2395 番 2 の土地 558 ㎡及び松山市余戸南 6 丁目 2396 番 1 の土地 572 ㎡を購入。

２０１８年（平成３０年）

５月３０日　多機能型事業所あゆみ駐車場のブロック塀を一部撤去し、運動等余暇活動スペースを拡大。

２０１９年（令和　元年）

９月１８日　清水基金様より 4,500,000 円の補助を頂き、就労継続支援Ｂ型作業棟として、大型ビニールハウス 2 基が完成。（総工費 6,536,160 円）

２０２０年（令和　２年）

３月２５日　丸紅基金様より補助金 2,000,000 円を頂き、本館補修工事 4,114,660 円。

５月２７日　「三浦保」愛基金様より補助金 300,000 円を頂き、看板等を設置及び購入。

２０２１年（令和　３年）

１月１５日
～　コロナ関連で国より補助金 957,000 円を頂き、1,014,000 円の物品購入。
３月１０日

６月２９日　前管理者補佐（渡部剛）様よりトラクター倉庫寄贈。

【思い出】

２００６年（平成１８年）　７月　１日　知的障害者通所授産施設あゆみ作業所開設。
土地、建物 103,832,180 円（補助金 82,893,000 円）、
備品等 894,600（補助金 843,313 円）、ハウス 2,493,960 円
（補助金 2,021,000 円）。

★地域の方々のご理解や皆々様のご協力もあり、あゆみ作業所が完成。

開所当初は利用者様 17 名（男性 13 名、女性 4 名）、
職員 7 名でスタートしました。作業は、箱折り、
アメニティグッズ入れ、農作業、ジャム、空き缶
つぶしをしていました。
この頃はほぼ毎日のように
自動販売機で飲み物を買っていました。

２００７年（平成１９年）　３月２９日　日本財団様より補助金 2,220,000 円を頂き、トヨタハイエース
（2,220,000 円）を購入。

★利用者様も 28 名になり、たくさん乗れるのでとても助かっております。
ありがとうございました。

２００９年（平成２１年）　６月　赤い羽根共同募金様より補助金 1,500,000 円を頂き、
日産セレナ（2,341,500 円）を購入。

２０１２年（平成２４年）　３月３１日　生活介護棟 144 ㎡が完成。総工費 22,522,500 円
（国庫補助金 19,425,000 円）

４月　１日　法改正により、事業所名を改称。
『知的障害者通所授産施設あゆみ作業所』は、『多機能
事業所あゆみ（就労継続支援Ｂ型、生活介護）』となる。

★利用者様も 45 名になり、各事業（就労継続支援Ｂ型、生活介護）
に分かれて活動するようになりました。

２０１３年（平成２５年）　６月　７日　清水基金様より 3,900,000 円の補助金を頂き、三菱ローザ
（6,025,830 円）購入。

★あゆみを出発し、砥部町、東温市を回り、約 2 時間の送迎をしております.
たくさん乗れるので助かっております。
ありがとうございました。

２０１３年（ 平成２５年 ）　９月１９日　就労継続支援Ｂ型実習用地として、松山市余戸南６丁目2394番５の土地（いちじく畑）785㎡（ 7,170,000円 ）購入。

★美味しいいちじくをたくさん作りますので、今後もお買い上げ宜しくお願い致します。

２０１４年（ 平成２６年 ）　１月３１日　日本財団様より補助金539,160円を頂き、ホンダアクティ（ 827,530円 ）を購入。

★既存の送迎車のみでは送迎できない事もあり、コンパクトな車なので有効活用させて頂いております。ありがとうございました。

２０１５年（ 平成２７年 ）　６月２９日　年賀寄付金様より補助金841,764円を頂き、トラクター（ 1,186,000円 ）を購入。

★トラクターを頂けた事で、作業効率が格段にアップしました。これからも色々な野菜等を作っていきますので、ご協力宜しくお願い致します。

２０１７年（ 平成２９年 ）　３月１７日　多機能型事業所あゆみ駐車場に安全を確保するため、門扉設置。
８月２１日　就労継続支援Ｂ型事業所用地として、松山市余戸南６丁目2392番５の土地404㎡及び松山市余戸南６丁目2393番３の土地1359㎡を購入。
１１月１６日　就労支援継続Ｂ型事業所用地として、松山市余戸南６丁目 2395番２の土地558㎡及び松山市余戸南６丁目2396番１の土地572㎡を購入。

２０１８年（ 平成３０年 ）　５月３０日　多機能型事業所あゆみ駐車場のブロック塀を一部撤去し、運動等余暇活動スペースを拡大。

★活動スペースも広くなり、バスケットやサッカー、散歩等をして楽しんでおります。また、バスの出入りもとてもしやすくなりました。
★お客様駐車場も確保できました。当事業所に御用の際は、お気軽にご利用下さい。

２０１９年（ 令和 元年 ）　９月１８日　清水基金様より4,500,000円の補助を頂き、就労継続支援Ｂ型作業棟として、大型ビニールハウス２基が完成。（ 総工費6,536,160円 ）

★トマト🍅と苺🍓を栽培しております。とても美味しくできておりますので、今後もお買い求め宜しくお願い致します。

２０１２年（ 平成２４年 ）～２０１９年（ 令和 元年 ）収穫祭

★愛媛県中予地方局様、愛媛銀行様を始め、様々な方のご協力により、
毎年盛大に開催する事ができました。
本当にありがとうございました。

２０２０年（ 令和 ２年 ）　３月２５日　本館補修工事。4,114,660 円（ 丸紅基金様補助金 2,000,000 円 ）

★ジャム室の間仕切り、ベランダ倉庫、相談室の間仕切り等など、補助金を頂けた事で空間を有効活用する事ができました。
ありがとうございました。

５月２７日　「 三浦保 」愛基金様より補助金 300,000 円を頂き、看板等を設置及び購入。

★看板の設置や幌等の貼り替え、
災害等に備え発電機等の購入をさせて頂きました。今後色々な場面で活用させて頂きます。
ありがとうございました。

２０２１年（ 令和 ３年 ）　１月１５日～３月１０日　コロナ関連で 1,014,000 円物品購入。
（ 国より補助金 957,000 円 ）

★オゾン発生機、空気清浄機、洗濯機、掃除機等を購入させて頂きました。
その効果もあり、皆様健康で毎日休まず通所する事ができております。
ありがとうございました。

６月２９日　前管理者補佐よりトラクター倉庫寄贈。

★トラクターの出入りがとってもしやすくなりました。

山陽物産様から毎年Xmas ブーツのお菓子を頂いており、皆さん
とても喜んでおります。

【事業概要】～令和３年５月１日現在～

１、施設名

①多機能型事業所あゆみ　：利用定員４０名。現員３７名。

○就労継続支援B型事業：利用定員１４名。現員１３名。

○生　活　介　護　事業：利用定員２６名。現員２４名。

２、職　員

常勤職員１０名（正職員）・非常勤職員７名　合計１７名

職　名	管理者	総務主任	支援主任	職業指導員	生活支援員	事務員
正職員	1	1	1	2	4	1
職　名	嘱託医	看護師	生活支援員	調理員	運転手	
非常勤職員	1	1	2	1	2	

３、利用者状況

年　齢	１０代	２０代	３０代	４０代	５０代	６０代
男	0	7	１１	0	1	0
女	1	6	8	1	2	0
合　計	1	１３	１９	1	3	0

４、市町村別利用状況

市町村名	松山市	東温市	松前町	砥部町	合　計
人　数	２８	3	4	2	３７

５、施設の目的

障がいのある方々に対し、自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう支援を行っていくことを目的としています。

利用者の個々のニーズ、適性に合った支援を行うため、事業内容を新法体系に再編し、就労継続支援B型事業、生活介護事業の二つの事業を実施しています。

～目指す施設づくり～

1、日常生活支援における生活技能を身につける施設

身だしなみ（着替えなど）、食事のマナーといった日常生活における基本的生活習慣を身につけるなどの生活自立支援を行います。

2、社会自立を促す施設

施設内外作業、生産活動の機会を提供し、知識・能力を高める支援を行います。

3、楽しくうるおいのある施設

スポーツ、レクリエーションなど事業所での活動を通し、自己選択、自己決定への意識を高める支援に努めます。

4、地域に親しまれる施設

地域行事への参加や、地域へのボランティア活動に参加し、地域との交流を深めます。

６、主な行事

①社会体験活動

（グループごとに買い物、調理、工作、プール、運動など）

②主な年間行事

月	主な行事	保健衛生	安全訓練
4	お花見	身体測定	避難訓練
5	障がい者スポーツ大会	身体測定	避難訓練（消火）
6	特別支援学校より現場実習（前期）	血液検査 内科検診 身体測定	避難訓練
7	夏祭り	身体測定	避難訓練（起震車）
8	果実狩り	歯科検診 身体測定	避難訓練
9	ふれあい販売会	身体測定	避難訓練
１０	運動会	身体測定	避難訓練（不審者）
１１	特別支援学校より現場実習（後期）	内科検診 インフルエンザ予防接種 身体測定	避難訓練
１２	大掃除 忘年会	身体測定	避難訓練（地震）
1	成人お祝い会 ふれあい販売会	身体測定	避難訓練
2	節分行事	内科検診 身体測定	避難訓練
3		身体測定	避難訓練（洪水）

７、支援内容

①日常生活支援

（食事、排せつ、整容、着脱衣、移動、相談）

②日中活動支援

（生産活動、余暇活動支援、就労支援、防災などの安全活動）

③社会生活支援

（コミュニケーション、社会適応訓練、情報提供）

④保健医療サービス

（健康管理、服薬管理）

⑤家族支援

（相談、情報提供）

８、就労継続支援Ｂ型事業

①事業の目的

雇用契約に基づく就労が困難な利用者に対して、就労の機会を提供するとともに、
生産活動や社会体験活動などの機会を提供し、必要な知識及び能力向上のための支援を行います。

②活動内容

＜農作業＞

・ビニールハウスによる苺、トマトの生産販売

・いちじく、野菜などの生産販売

＜ジャム＞

・いちじく、苺、トマト、みかん、キウイのジャム製造販売

＜製作事業活動＞

・製品の袋詰め

・アメニティセット作り

・タオル折り

・製品の組み立て　など

＜施設外清掃＞

③主な活動場所

・本館１階作業室・・・ジャム生産活動

・本館２階作業室・・・軽作業

・畑、ハウス　　・・・農作業

・施設外　　・・・施設外清掃

④日　課

7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
	送　迎	準備など	生産活動		昼食	生産活動		片付けなど	送　迎		

※生産、社会体験活動の活動時間の中に休憩も含まれています。

※毎月一回、社会性を身につけるための社会体験活動を実施します。

※毎月の行事予定を配布し、日程をお知らせします。

９、生活介護事業

①事業の目的

常時介護を必要とする障がいのある利用者に対し、自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう、入浴、排せつ、食事の介護、創作活動及び生産活動の機会の提供その他必要な支援を行います。

②活動内容

＜創作活動＞

・調理活動

・工作

＜生産活動＞

・ゴム製品仕上げ

・箱折り

・空き缶つぶし　など

＜生活支援＞

・入浴

・衣類の着脱、排せつ、食事

・軽運動　など

③主な活動場所

・別館　・・・生活支援、創作活動、生産活動

・本館　・・・生産活動

④日　課

7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
	送　迎	準備など	生産活動		昼　食	生産活動	片付けなど	送　迎			

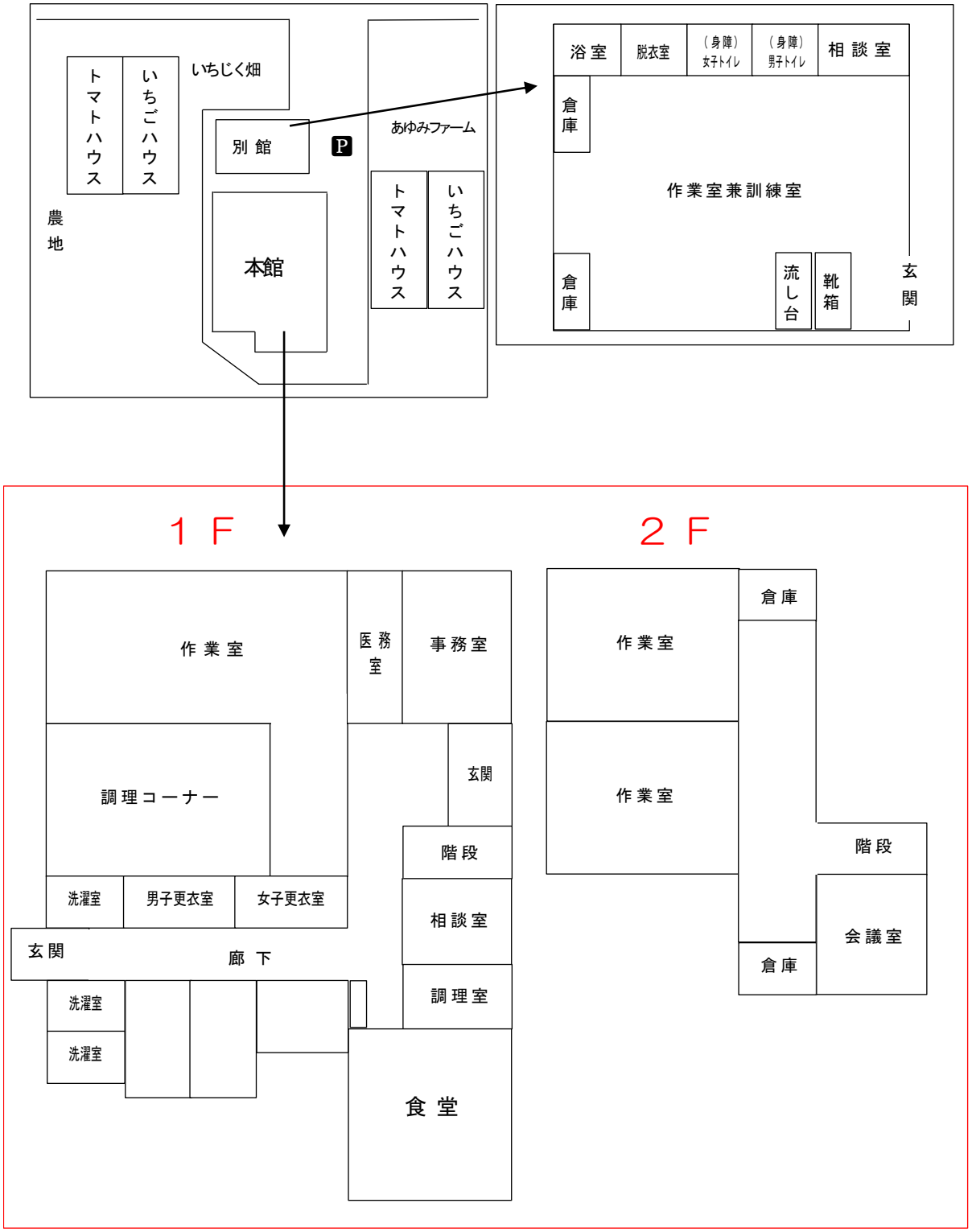
※毎月希望を聞き、３～５回程の割合で音楽や創作、調理、プール、入浴、運動、外出などの活動を行います。

※生産、創作、レクリエーション活動などの活動時間の中に休憩時間も含まれます。

※毎週火・水曜日に入浴支援を行います。

※毎月の行事予定を配布し、生産活動、創作活動などの日程をお知らせします。

１０、配置図


トマトハウス
いちごハウス
いちじく畑
別 館
P
あゆみファーム
トマトハウス
いちごハウス
農地
本館
浴 室
脱衣室
（身障）女子トイレ
（身障）男子トイレ
相 談 室
倉庫
作業室兼訓練室
倉庫
流し台
靴箱
玄関
１ Ｆ
２ Ｆ
作 業 室
医務室
事務室
調理コーナー
玄関
階 段
洗濯室
男子更衣室
女子更衣室
相 談 室
玄 関
廊 下
調 理 室
洗濯室
洗濯室
食 堂
作 業 室
倉 庫
作 業 室
階 段
会 議 室
倉 庫

多機能型事業所あゆみ

職員

充実した楽しい人生を一緒に過ごしていきましょう♪「仲良く、楽しく優しく」を座右の銘にして
施設長　喜安勝也

祝創立60周年
記念すべき日々の営に参加させて頂き大感謝です。
これからもあゆみの伝統を大切に皆さんが目標を持って毎日楽しく過ごせるよう努めたいと思いますので、これからも温かい目でお見守り下さい。
谷口

あゆみ学園６０周年おめでとうございます。
６０年前と言えば私は５歳。そのころ産声を上げたあゆみ学園と同じ時代を過ごしてきました。
これからも８０年１００年と歩み続けて欲しいと願います。
飛井　英規

創立60周年
おめでとうございます
今後も日々を大切にして
経験を重ねていきたいです
杉野

設立60周年、おめでとうございます。
あゆみのジャムを買っていただいた方みんなに「美味しい」と言ってもらえるジャムづくりを目指しています。これからも利用者さんと一緒に頑張ります！
恵見　恵子

祝!! 60周年
これからも皆さんと力を合わせて、笑顔で楽しい毎日を過ごしていきたいです。
永井　壮

あゆみ創立60周年
法人創立50周年
おめでとうございます。
今後の更なる発展をお祈りします。～溝井～

祝!創立60周年!!
あゆみ学園が創立された1960年は、一体どんな年だったのか気になったので調べてみると、『カラーテレビの本放送が開始』された年とのこと…。歴史の重みをひしひしと感じますな
丸山茂雄

あゆみ学園創設60周年
おめでとうございます。
今後の益々のご発展をお祈り申し上げます。
多機能型事業所あゆみ
支援員　大野明子

あゆみ学園設立60周年
おめでとうございます。
今後も共に成長してまいりたいと思います。
玉置　司

祝
60th anniversary
おめでとうございます。
元保育士

60周年おめでとうございます。
いつもたくさんの「ありがとう」と「笑顔」に元気をもらっています。
これからも色々なことを発見、挑戦しながら楽しく仕事をしていきたいです。
村桑　恵美

創立60周年おめでとうございます。
温かい人達に囲まれて記念の日を共に迎えられたことを嬉しく思います。今後も学ばせて頂きます。
滝川　美咲

設立60周年
おめでとうございます
宮根

創立60周年。
おめでとうございます！
お祝いできることを大変嬉しく思います。これからも立派な歴史を作ってください。
大野智

創立60周年を迎えられましたこと、心よりお慶び申し上げます。
この60年が新たな時代へと飛躍する大きな節目となりますことを期待いたします。
西岡

あゆみ学園60周年法人50周年
誠におめでとうございます

私はこれからも多機能型事業所あゆみに通い
大好きな支援員さん達や利用者さん達と一緒に
あゆみのためにがんばります

利用者さんや支援員さんと「仲良く」
色々な活動をみんなと一緒に「楽しく」
そしてこまっている人に「優しく」
できるステキな人になりたいです。

あゆみ創立60周年おめでとうございます。
みんなとなかよくしていきたいです。
これからもあゆみがつづきますように。

あゆみ創立60周年
おめでとうございます。
ジャム作りをがんばりたいです。
みんなとなかよくしたいです。
これからもがんばりたいです。

多機能型
事業所
あゆみ
利用者

あゆみが
すきです。
これからも
ずっと来たいです。

小規模保育事業所　ひかり

企業主導型保育事業　あゆみ保育園

あゆみ学園の保育事業について

小規模保育事業所ひかり

主任保育士　四元　晶子

「小規模保育事業所ひかり」は、昭和４８年 10 月に松山市山越で開設された「ひかり保育所」の精神を受け継ぐ形で、社会福祉法人あゆみ学園が平成２８年４月に畑寺町に開設した保育園です。この施設は、制度上３歳までの子どもたちが対象だったため、その後、就学までの子どもたちの受け皿として平成３０年３月、「企業主導型あゆみ保育園」が生まれました。二つの小さな園の定員は合わせて４０名、ひとつの建物の中にあることをメリットに、ひとつの家族のように連携し、乳児から就学までを切れ目なくサポートしています。

「良い保育」「暖かい保育」を標榜する施設はたくさんありますが、私たちはそれを看板にではなく、利用する方々と子どもたちの心の中に描きたいと思います。子どもたちの生きる力と知恵、そしておともだちといっしょでなければ学べないことを大切に、郊外の小さな園舎で家庭的で温もりのある保育を目指しています。大きな遊具や保護者にアピールする行事はありませんが、現場感覚で工夫された遊具や四季折々の花々、ミミズやダンゴムシが子どもの心や体を育てます。近くに四季を感じられる園外保育場があることも自慢です。

あゆみ学園とは、距離が離れていることもありなかなか交流する機会がありませんが、作業所の畑でお芋ほり体験をさせていただき、子どもたちも毎年とてもたのしみにしています。

そんな保育園も開園当初は、新しい建物があるものの子どもたちを保育するうえで必要なものがすべてそろっているとはいえませんでした。棚を組み立て部屋の仕切りを作ったり、運動場の地面をならし、人工芝を張ったりすることも職員が力を合わせて頑張りました。今も理想の形を求めて日々試行錯誤を繰り返すことに変りはありません。

法人の施設としてはまだまだ始まったばかりですが、たくさんの方たちに支えられて今があることに感謝しながら、これからも職員一同、子どもたちと一緒に地域に愛される保育園として成長していけるように頑張りたいと思っています。

あゆみ保育園

主任保育士　水本　ちひろ

「企業主導型あゆみ保育園」は、平成 28 年度に内閣府が開始した制度を利用し、平成 30 年 3 月に開園した保育園です。0 歳から就学までの子どもたちが対象で「小規模保育事業所ひかり」の子どもたちと、共に泣いたり、笑ったりしながら、毎日、元気ににぎやかに過ごしています。

3 歳までの子どもたちは園庭や運動場で過ごすことが多いのですが、住宅地の中にある園の周辺には自然が残っている場所が多く、天気がいい日にはみんなで散歩に出かけ、気分転換や体力づくりをしながら、その季節ならではの発見を楽しんでいます。また、近くには展望台から松山市が一望できる、標高 320ｍの淡路ヶ峠という山があり、子どもたちも 3 歳くらいから、最初は途中の休憩所を目標に歩き、少しずつ距離を伸ばしながら、頂上を目指しています。

そして、あゆみ保育園には、みんなが「ひかり山」と呼んでいる園外保育場があります。園バスで 15 分ほどの場所にあり、4 歳になると交代でほぼ毎日ひかり山に出かけ、追いかけっこをしたり、おままごとをするなど、自分の好きな遊びを時間いっぱい楽しんでいます。

「ひかり山」は山を削るところから始まり、設置してある遊具やデッキは職員で力を合わせて少しずつ整備したものばかりです。自然豊かな山の中では、春は桜の木の下のお花見やたけのこ取り、夏は泥遊びや水遊びを楽しんでいます。七夕の笹もひかり山のものを使います。秋になると「みんなに見せてあげる」とポケットいっぱいにどんぐりを詰めてにっこりです。冬が来ると寒さを利用して氷づくりに挑戦したり、身体が温まるように鬼ごっこをして楽しみます。

ひかり山は四季折々が肌で感じられる場所となっていて、みんなにとって楽しい場所ですが、遊び方を間違えると危険なこともたくさんあります。私たちもその都度しっかりルールを伝えていますが、年長の子が率先して小さい人に遊び方や危ない事などを教えてくれることもあり、子どもたちの育ちに驚くこともあります。大きい人の様子を見る・真似する、小さい人のことを思いやることで、自然にさまざまなことが身につき、育ちあうところが縦割り保育のいいところです。

これからも、保護者や子どもたちと一緒に悩み、考え、日々の学びを大切にしながら、それぞれの成長や気持ちに丁寧に寄り添っていきたいと思います。

住所　松山市畑寺町８４３－１　TEL　089-948-4402

ホームページ　　園長ブログ

園の概要

保　育　理　念	子どもと保護者が安心して過ごせる、ひとりひとりの個性や発達を大切にした温もりのある保育
保　育　方　針	１　子どもの健康と安全を基本に、保護者の協力の下に保育を行う ２　安定した情緒で生活できる環境を整備し、健全な心身の発達をはかる ３　五感を働かせて自然と親しめる心を育み、豊かな感性を育む ４　保護者の要望や意見、相談に誠意を持って対応し子育てを支援する

園児

小規模ひかり	０－３歳
定員	１２

あゆみ保育園	０－就学まで
定員	２８

職員

小規模ひかり	常勤	非常勤
管理者	１	
主任保育士	１	
保育士	４	
調理員	１	

あゆみ保育園	常勤	非常勤
主任保育士	１	
保育士	３	１
保育支援員	１	
調理補助員		１
保育補助員		１
連携推進員	１	

4月　新しい１年の始まりです。ひかり山のタケノコが豊作で冷蔵庫がタケノコだらけになりました。小さいものは子どもたちのままごとの材料になりスコップで切り刻んで遊んでいます。

5月　きりん組24人全員で淡路が峠に登りました。いつも学校組さんがみんなのために、頂上で飲むための水をリュックにいれて運んでいます。がんばったあとのご褒美は格別です。

6月　自分の思いが通らなくて泣いてしまうこともありますが、お友だちとの遊び方も少しずつ上手になっています。土と水、光と空、緑いっぱいの自然がみんなの心を大きく包み込んでいます。

7月　七夕飾りを作りました。ひかり山から持って帰った笹にみんなが作った輪飾りや短冊、いろいろな飾りをつけました。みんながげんきにのびのび育ちますように・・・

8月　今年も無事にお泊り保育ができました。初めての人たちもみんなで一緒に仲良くお風呂に入り、夕食、ビンゴ大会、くじ引き、花火と盛りだくさんの楽しい夜を過ごしました。

9月　大きい先生のアイデアで、木製のベンチがリメイクされてブランコになりました。早速、仲良し３人組が気持ちよさそうに揺られています。大人が乗っても大丈夫なくらいの安定感です。

１０月　今年も桑原小学校の体育館をお借りすることができて、無事に運動会ができました。前日からの準備も手際よくできるようになり、たくさんの人たちのご協力に感謝の１日になりました。

１１月　強風で、地面一面に落ちたひかり山のイチョウの葉っぱの上で記念撮影です。この時期はきれいですが、銀杏が落ちると後始末がたいへんなので、ついにこのあと木を切ってしまいました。

１２月　１歳さんにとっては保育園の初めてのクリスマス会。可愛らしいサンタさんの登場にもまんまるおめめでびっくり。ちょっぴり豪華なごちそうをみんなでたくさんたべました。

1月　こちらはいつも一緒のきりん組の仲良し３人組。お庭のトイハウスの中に入って何やら思案中。カメラをむけるとみんな飛び切りの笑顔を見せてくれました。

2月　見奈良の菜の花畑にいきました。小さい人中心だったので引率の先生たちはハラハラしっぱなしでしたが、無事に記念撮影ができました。いつも満開の時期を楽しみにしています。

3月　年長・年中児は、新居浜の県立科学博物館にお別れ遠足に出かけました。雨と霧でかすむ桜三里を抜け、１時間半のドライブでしたが何とか無事にたどりつき、楽しく過ごせてよかったです。

卒園式

７人の学校組さんの卒園式です。式の終わりにピカピカのランドセルを背負った姿で、サプライズ登場してくれました。それぞれの場所でこれからも元気に頑張ってほしいと思います。

☆保育園の先生方へ☆　（２０２２年3月　保護者からの卒園メッセージ）

◎　５年間本当にありがとうございました。

園での様子は毎日ノートで知らせてくださり、亘の成長を感じながら安心して仕事をすることができました。園ではコップを使ってお茶を飲んでいます。トイレでおしっこをしました。日中はパンツで過ごします。お箸でご飯を食べています。小さな子の手を引いてお散歩に出かけましたなど、園での亘は自宅で見ている姿よりしっかりしていて、驚いたりうれしく思ったりしていました。また、コロナ禍でも生き生きと過ごしている子どもの様子は大きい先生のブログを通して知ることができ、私たちに日々の楽しみと癒しをいただきました。

卒園を迎え、私たちも心細く感じます。あゆみ保育園ともう少し繋がっていたい気持ちですが園で育んでいただいた子どもの生きる力をさらに伸ばしていけるよう親子で成長していきます。

◎　恥ずかしがり屋のいっくんも、大きな声で挨拶したり、困っている人に声をかけたり、とても頼もしくなりました。また、保育園のごはんおいしい！とたくさん食べ、とても大きくなりました。心も体も大きく育ててくださって、本当にありがとうございました。毎晩、先生からの連絡帳を読んでくすっと笑うこと、お風呂でいっくんから園のお話を聞くこと、休日にひかり山にお邪魔させていただき、家族で森林浴をすること…どれも私たちの癒しでした。コロナ禍で多くの制限がある中、様々な工夫で自然や人と触れ合う機会を存分に与えてくださり、子どもらしく伸び伸びと自由に毎日を送れたこと、本当に感謝しています。ありがとうございました。

◎　入園から卒園の日まで、大変お世話になりました。

今まで離れて過ごしたことが無かった悠真が、１人で知らない世界で楽しくやっていけるのだろうか…と思いながら、入園前日に保育園バッグの中身の確認していた事を懐かしく思い出します。しかし、そんな不安もその日限りのことで、日中の様子や、できるようになった事などが丁寧に書かれたノートは、悠真の充実した日々が目に浮かぶようで、とても安心した事を覚えています。

保育園で過ごした時間は、悠真のこれからの長い人生の基盤を作っていただいたと思っています。いつも大きな愛情で接してくださり、子供達に寄り添った保育をしていただいてありがとうございました。

これからもお身体に気をつけて、さらなるご活躍をお祈りしています。

◎　あゆみ保育園が、まだ前身のひかり保育所だった頃、0歳の衣舞と一緒に見学に伺いました。それから1歳から卒園まで、共に衣舞を育てていただき本当にありがとうございました。

この5年間で衣舞は生きる力と優しさを身に付けました。工夫された栄養満点の給食とおやつのおかげで、こんなにも大きくなりました。

一生懸命ハイハイしていたのがよちよちと歩くようになり、布おむつだったのが自分でトイレに行けるようになりました。たくさんのあいさつと言葉を覚え、意思表示ができるようになりました。グーでスプーンを握っていた手が、お箸をうまく使いこなすようになりました。私たちが読んであげていた絵本を、衣舞が読んでくれるようになりました。感謝を言葉や文字にして伝えてくれるようになりました。

子育てと仕事の両立で不安だった父母の気持ちはあっという間に吹き飛び、在園中不安に思うことは何一つありませんでした。衣舞が生きる力を身に付けたように、親の私たちも一緒に成長できているとうれしいです。本当にありがとうございました。

◎　ひかり保育所時代から、司子と史子、あわせて10年間、お世話になりました。

働く私たちにとって、子どもと一緒に過ごすことができない時間を、たくさんの愛情をかけて育てていただき、感謝申し上げます。先生方や園のお友だちと過ごした時間は、私たちの家族にとって、一生の宝物です。ありがとうございました。

◎　1歳のお誕生日から卒園まで、大切に育てて頂きありがとうございました。丁寧な連絡帳、毎日の写真、大きい先生のブログなど、一人ひとりをしっかり見てくださって、毎日安心でした。

泥だらけの靴や汗だくの服、ポケットの中の石やどんぐりを見て、お庭やひかり山でいろんな発見をしながら元気に遊んでいる様子が目に浮かぶようでした。「今日のお空は雲0個やね」「ウグイスの声がした！」など、季節や自然に目を向けられるようになりました。小学生になっても感受性豊かにのびのびと育ってほしいです。最後に、いつもみとちゃんのことも気に掛けてくださり、ありがとうございます。心配や不安の多い育児ですが、ちょっとしたお気遣いで心が温かくなりました。またそうくんと一緒に立ち寄らせていただきます！

◎　1kgちょっとの小さな体で生まれた理之助、保育園に入るまで何気ない事が心配でした。9ヶ月だった理之助と一緒にひかり保育所を訪れ、大きい先生、小さい先生と初めてお会いした時「小さいけれどしっかりしてますよ。大丈夫ですよ。」との声になんと安心できたことか。

その後は毎日楽しそうにしている様子を伝えてくださり、連絡帳を開く度にこんな事ができるようになったの？と驚いたり、保育園での様子にほっこりしたり、離れている時間を忘れさせるほどの事細かなご連絡。

子どもの成長を先生方と共有できること、園児一人ひとりにたくさんの愛情をかけてくれる保育園に出会え、本当に幸せだったと感じています。ありがとうございました。

編　集　後　記

社会福祉法人あゆみ学園は、このほど設立６０周年を迎えました。この間、多くの方々の支援と、関係機関の皆様の御理解・御指導のもとに、配慮を要する児童の療育の場として発展してまいりました。さらに本文の沿革にも記されている通り、法人の事業所として成人の通所施設と保育所を加え、現在に至っております。

あゆみ学園は節目の記念誌として、２０周年、４０周年にそれぞれ冊子を発行してまいりました。これに倣い６０周年の記念誌をと３年以上前から企画をしていたものの、コロナ対応に取り紛れて発行が遅れ、とうとう現在に至ることとなりました。

御執筆の皆様には長々とお待たせして、本当に申し訳ありません。お詫びと共に、心から感謝を申し上げる次第です。今後ともあゆみ学園をよろしくお願い申し上げます。

法人設立60周年記念誌

発　　行　　令和５年８月

発 行 者　　愛媛県松山市余戸南６丁目６番９号

社会福祉法人　あゆみ学園

理事長　　森　　公夫

編集委員　　今村　高博　　安藤　隆文

谷口　　篤　　玉置　　司

四元　晶子　　水本ちひろ